

永遠の真理

ETERNAL TRUTH



2014 年 6 月

「真理の言葉を正しく分け」「家庭においてキリストを映す」

「第二天使のメッセージ『バビロン捕囚とそこからの解放』」

永遠の真理

いま永遠の真理の土台の上に堅く立ちなさい。(3T p.45)

目次

今月の聖書勉強

「真理の言葉を正しく分け」

4

イエスの聖書研究

朝のマナ

「家庭においてキリストを映す」

9

キリストを映して

現代の真理

「バビロン捕囚とそこからの解放」

70

三重のメッセージ - 第二天使のメッセージ -

力を得るための食事

「麻婆豆腐」

78

お話コーナー

「看護婦に救出される」

80

教会

【正丸教会】

〒 368-0071 埼玉県秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1

電話 : 0494-22-0465

FAX : 0494-40-1045

【高知集会所】

〒 780-8015 高知県高知市百石町 1-17-2

電話 : 088-831-9535

【沖縄集会所】

〒 905-2261 沖縄県名護市天仁屋 600-21

電話 : 0980-55-8136

アクセス

ホームページ : <http://www.4angels.jp>

メール : support@4angels.jp

発行日 2014 年 5 月 30 日

編集&発行 SDA 改革運動日本ミッション

〒 368-0071 秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1

Illustrations: Dreamtimes on front cover; Getty Images on page 7

Printed in Japan

イエスの胸に横たわり、よりかかり、そばに立ち

「イエスの愛しておられた者が、み胸に近く席についていた。……その弟子はそのままイエスの胸によりかかって」（ヨハネ 13:23, 25）、「イエスは、その母と愛弟子とがそばに立っているのをごらんになって」（ヨハネ 19:26）、「イエスの愛しておられた弟子がついて来る」（ヨハネ 21:20）。

ヨハネは、ほかの使徒たちより、イエスがとりわけ「愛しておられた弟子」である（ヨハネ 21:2）。ヨハネはキリストとの友情を、最高にたのしく味わったように見える。たしかに彼は、救い主の信頼と愛のしるしを豊かに受けたのである。……

愛弟子に対する救い主の愛情は、力いっぱい、燃えるような献身で報いられた。ヨハネは、ぶどうのつるが堂々とした柱にからむように、キリストにぴったりとついて離れなかった。主のために彼は法廷の危険を物ともしなかったし、十字架を離れずにいた。……（患難から栄光へ下巻 241, 242）

キリストに対するヨハネの愛情の深さと熱烈さは、ヨハネに対するキリストの愛を引き起こしたのではなく、かえってヨハネに対するキリストの愛の結果生じたものである。ヨハネはイエスのようになりたいと望んだ。そして、キリストの愛の人間を変える感化力のもとに、彼は柔和で謙遜になった。自己はイエスの中に隠された。ヨハネは仲間たちのだれよりも、その不思議ないのちの力に服従した。……ヨハネは体験的な知識によって救い主を知った。主の教えが彼の魂に刻みつけられた。彼が救い主の恵みをあかしたとき、彼の単純な言葉は、全身に満ちた愛により雄弁になった。

ヨハネは、キリストに抱いていた深い愛により、いつもキリストのそば近くにいたいと願った。救い主は十二人の弟子たちみんなを愛されたが、ヨハネの気持ちは最も受容性に富んでいた。……そして、だれよりも、子供のような打ち解けた信頼からイエスに心を開いた。こうして彼はキリストと更に共鳴するようになり、彼を通して救い主の最も深い霊的教えが人々に伝えられた。（患難から栄光へ下巻 247）

救い主の比類のない愛に目をそそぐ人は思いが高められ、心がきよめられ、品性が一変する。彼は出て行って、世の光となり、このふしぎな愛の幾分かを反映する。キリストの十字架を熟視すればするほど、「わたしたちの主イエス・キリストの十字架以外に、誇とするものは、断じてあつてはならない」と言った使徒パウロのことばが一層深くわれわれのものとなるのである（ガラテヤ 6:14）。

ヨハネの生活と品性にあらわれていたキリストへのひたむきな愛と無私の献身は、キリスト教会に口で言いあらわせない価値のある教訓を与えている。（患難から栄光へ下巻 242）

「真理の言葉を正しく分け」

テモテ第二 2:15

主のめぐみの年を告げ知らせるために

「…主のめぐみの年を告げ知らせるのである」。イエスは聖書を巻いて係りの者に返し、……イエスは、「この聖句は、あなたがたが耳にしたこの日に成就した」と説きはじめられた。すると、彼らはみなイエスをほめ、またその口から出て来るめぐみの言葉に感嘆して言った、「この人はヨセフの子ではないか」。(ルカ 4:16-22)

主なる神の霊がわたしに臨んだ。……(イザヤ 61:1-2)

イエスは、ご自身についての預言の生きた解説者として、人々の前にお立ちになった。イエスはいま読まれたことばを説明するにあたって、……イエスの印象的な態度と、そのみことばのすばらしい意味とは、聴衆がこれまでかつて感じたことのなかった力をもって、彼らを感動させた。神の力の波があらゆる障壁をうちこわした。モーセのように、彼らは目に見えないおかたを見た。彼らは、心が聖霊に動かされるままに、熱烈なアーメンと賛美とをもって主に答えた。……

このイエスは何者だと、彼らはたずねた。メシヤの栄光をご自分のものとして主張されたこのおかたは、大工の息子で、父親のヨセフといっしょに、大工仕事をしておられた。(各時代の希望上巻 293)

イエスは聖書を巻いて……

イエスが会堂で預言者の書から読まれたとき、彼は、メシヤの働きについて描写されている最後のことばをお読みにならなかった。イエスは、「主の恵みの年……を告げさせ」と読まれて、「われわれの神の報復の日」ということばを省略された(イザヤ書 61:2)。この預言のあとの部分は、初めの部分と同じに、事実なのである。イエスは沈黙することによって、この事実を否定されたのでは

なかった。この最後のことは、聴衆がよろこんで強調し、その成就を望んでいることばだった。彼らは、異教徒に刑罰を宣言したが、彼ら自身の不義がほかの人たちの不義よりもっと大きいことをみとめていなかった。彼らは、異教徒にあわれみをかけることをこぼみがちであったが、その彼ら自身が最も深いあわれみを必要としていた。イエスが会堂で彼らの中にお立ちになったその日は、彼らが天の神の呼びかけを受け入れる機会だった。「神はいつくしみを喜ばれるので、」彼らが罪のために招きつつあった破滅から、彼らを喜んでお救いになったであろう（ミカ 7:18）。（各時代の希望上巻 297, 298）

この人は大工の子ではないか

この人は大工の子ではないか。……こんな数々のことを、いったい、どこで習ってきたのか。（マタイ 13:55）

この人は大工ではないか。……こうして彼らはイエスにつまずいた。（マルコ 6:3）（ヨハネ 6:42 参照）

光はやみの中に輝いている。そして、やみはこれに勝たなかった（これを容認しなかった）。（ヨハネ 1:5）

ああ、キリストはどんなにかイスラエルに真理のとうとい宝を開いてみせようと熱望されたことだろう。……もし彼らが正直に聖書を調べ、自分たちの理論を神のみことばに照していたら、イエスは、彼らのかたくなな心にお泣きになる必要はなかったのである。（各時代の希望上巻 299）

キリストは決して人々にうれしがらせを言われなかった。彼らの空想と想像とを高慢にするようなことを語ったり、彼らのじょうずな作り話をほめたりするようなことをされなかった。しかし偏見にとらわれないで深く物事を考える人たちは、イエスの教えを受け入れ、その教えによって自分たちの知恵がためされることを知った。彼らはどんな単純なことばにも霊的な真理があらわされているのに驚嘆した。最高の教育を受けた人たちも、イエスのみことばに魅力を感じ、教育のない人たちもいつも益を受けた。イエスは読み書きのできない人たちのためにメッセージをもっておられた。イエスはまた異教徒にさえ、彼らのためのメッセージをもっておられることをおわからせになった。（各時代の希望上巻 317）

彼らはつまらない専門用語について論争し、最も本質的な真理を事実上否定

した。こうして不信仰の種が広くまかれた。神のみことばはその力を奪われ、悪霊は思いのままに働いた。

歴史はくりかえされている。聖書を目の前に開いて、その教えをとうとぶと告白しながら、今日多くの宗教家たちは、聖書を神のみことばとして信じる信仰を破壊している。彼らはみことばを批評するのに忙しく、みことばにはっきり言われていることよりも自分自身の意見を第一にする。彼らの手によって、神のみことばは人を生れかわらせる力を失う。不信仰がはびこり、不義が盛んな理由はここにある。(各時代の希望上巻 322)

主がご自分の民の間で特別な働きを持っておられるとき、またこのお方が命に関わる真理を考えさせるために彼らの思いを目覚めさせようとなさるとき、サタンは些細な相違点を持ち込むことによって思いをそらすために働く。それによって教理に関して主題の要点を理解するために重要ではない問題を作りだし、こうして不一致をもたらし、重要な点から注意をそらすためである。こうしたことが起こるとき、主は彼らの救いに必要なことに関して人々の心に印象を残すために働いておられる。そのとき、もしサタンが何か重要でない問題へと思いを引き離し、民が何か小さな点で意見が分かれ、彼らの心が光と真理に対して閉ざされるとき、悪意に満ちた勝利に狂喜するのである。(伝道 154)

それは多くの人の心にある思いが、現れるようになる

わたしの目が今あなたの救を見たのですから。この救はあなたが万民のまえにお備えになったもので、……そして、あなた自身もつるぎで胸を刺し貫かれるでしょう。—それは多くの人の心にある思いが、現れるようになるためです。(ルカ 2:28-35)

あなたの神、主がこの四十年の間、荒野であなたを導かれたそのすべての道を覚えなければならない。それはあなたを苦しめて、あなたを試み、あなたの心のうちを知り、あなたがその命令を守るか、どうかを知るためであった。(申命記 8:2)

預言の霊がこの神のしもべの上にくだった。……(各時代の希望上巻 43)

わたしは柔和で心のへりくだった者である。(マタイ 11:29)

「多くの人の心にある思いが現れるようになるためです」(ルカ 2:35)。救い主

の生涯の光の中には、創造主から暗黒の君にいたるまで、すべての人の心があらわされている。(各時代の希望上巻 45)

預言の霊

預言者によって人々に語られたのは、キリストであった。……〔ペテロ第一 1:10, 11〕。旧約聖書を通して、われわれに語るのはキリストの声である。「イエスのあかしは、すなわち預言の霊である」(黙示録 19:10)。イエスは、ご自分が人々の間におられて教えられたときに、人々の心を旧約にお向けになった。イエスは、ユダヤ人に「あなたがたは、聖書の中に永遠の命があると思って調べているが、この聖書は、わたしについてあかしをするものである」と言われた(ヨハネ 5:39)。このときは、旧約聖書が、聖書として存在していたに過ぎなかった。……〔ルカ 16:29, 31〕。(人類のあけぼの上巻 435)

聖書を調べなさい

キリストは、「聖書を調べなさい」と言われた。「あなたがたは、聖書の中に永遠の命があると思って調べているが、この聖書は、わたしについてあかしをするものである」。聖書を調べる義務は、すべてのアダムの息子むすめに課されている。イエスは、「この聖書は、わたしについてあかしをするものである」と言われる。御父は御子にうちに表された。そしてキリストを研究することによって、わたしたちは御父について学ぶのである。そうであれば、わたしたちはやわらげられ征服された心をもって神のみ言葉を探り、わたしたちの主であり主人であられるお方についての証を読もうではないか。わたしたちは真剣に関心をもってこのお方の精神をつかみ、このお方の模範に倣い、光と愛であるこのお方のご臨在の雰囲気を呼吸しないであろうか。どれほど熱心にこのお方の聖なる唇からこぼれる一つ一つの教訓を学ぶべきであろうか。どれほどこのお方の教えを心のうちに大事にすべきであろう。どれほど熱心にこのお方のご品性と生活を模倣しようと努め、このお方が教えてくださった天来の真理をますます知るために押し進んでいくべきであろうか。もしわたしたちがこのお方のお与えになった真理を実践しさえすれば、わたしたちにとっても、世にとっても最高に価値のある経験を完成するので

ある。

イエスはご自分の弟子たちに真理の新しい見解を提示された。そしてこのお方の仰せになった意味は、かつて人間の唇によって教えられたどんな教訓の意味よりも、どれほど深かったことであろう。「キリスト（神）は肉において現れ、霊において義とせられ、御使たちに見られ、諸国民の間に伝えられ、世界の中で信じられ、栄光のうちに天に上げられた」。

わたしたちはどのように聖書を調べるのであろうか。教理の杭を次々と打ち、それからすべての聖句をわたしたちの打ちたてた意見に合わせようとするのであろうか。あるいは自分たちの考えや見解を聖書に照らし合わせ、自分たちの理論を真理の聖書によってあらゆる角度から測るのであろうか。聖書を読み、あるいは教えてさえいる多くの者が、自分たちの教え、あるいは研究している尊い真理を理解していない。真理がはっきりと示されているときに、人々は誤りを抱く。そしてもし彼らが自分たちの教理を神のみ言葉に照らし合わせてみさえすれば、また自分たちの考えが正しいことを証明するために、神のみ言葉を自分たちの教理の光のうちに読むことをしなければ、彼らは闇や盲目のうちに歩いたり、誤謬を大事にしたりしないのである。多くの人々が聖書の言葉に自分自身の意見に合う意味を与え、神のみ言葉についての自分たちの誤った解釈によって、自らを誤り導き、他の人々を欺く。わたしたちが神のみ言葉の研究にとりかかるとき、へりくだった心をもってなすべきである。あらゆる利己心、あらゆる独創性を愛する心は、脇へおかなければならない。長い間大事にされてきた意見も無謬だと考えてはならない。ユダヤ人が破滅したのは、彼らが長い間打ちたててきた伝統を捨てようとしなかったからである。彼らは自分自身の意見や聖書の解釈のうちにどんな欠陥も認めまいと決心していた。しかし、人がどんなに長くある見解を抱いていたとしても、もしそれがはっきりと記されたみ言葉によって支持されていないのであれば、捨てるべきである。（ビュー・アソド・ヘラルド 1892 年 7 月 26 日）

キリストを映して

Reflecting CHRIST



6月 「家庭においてキリストを映す」

6月1日

最初の家庭エデン

「主なる神は……ひとりの女を造り、人のところへ連れてこられた。……それで人はその父と母を離れて、妻と結び合い、一体となるのである。」(創世記 2:22～24)

神は、最初の結婚をとり結ばれた。だから、結婚式の制定者は、宇宙の創造主である。「結婚を重んずべきである」(ヘブル 13:4)。それは、神が人間にお与えになった最初の賜物の一つであつた。また、それは、墮落後、アダムが楽園の門から持って出た二つの制度のなかの一つである。婚姻関係に関する神の原則をわきまえ、それに従うときに、結婚は祝福である。それは、人類の純潔と幸福を守り、人間の社会的必要を満たし、肉体的、知的、道徳的性質を高める。……

われわれの祖先の家庭は、その子供たちが地に住むためにひろがっていくときの、彼らの家庭の模範とならなければならなかった。……神は、アダムを園の中におかれた。これが、彼の住居であつた。……清い家族の環境は、すべての時代に教訓を教えている。つまり、真の幸福は、誇りとぜいたくにふけることにあるのではなくて創造のみわざによって神と交わることにあるということである。もし人間が、人工的なものに目を向けず、もっと単純さをつちかうならば、彼らは、神の創造の目的に接近することであろう。誇りや野心は、あくことを知らない。しかし、真に賢明なものは、神がすべての人の手のとどくところにおかれた喜びの源泉から、実質的で高尚な楽しみを見いだすのである。

エデンに住むアダムとエバには、「それを手入れし、守るために」園の管理が任せられた。彼らの仕事は、たいくつなものでなく、楽しく爽快なものであつた。神は、頭脳を活動させ、身体を強壮にし、能力を発達させるために、

労働を祝福として人間にお与えになった。知的、また体的に活動することが、アダムの清い存在の最高の楽しみの一つであった。……清い家族は、天の父の保護を受ける子供たちであるばかりでなくて、知恵に満ちた創造主から教えを受ける生徒でもあった。……造られた世界の秩序と調和は、無限の知恵と力とを彼らに語った。彼らは、自分たちを強く引きつけ、彼らの心を深い愛で満たし、新たな感謝の声をあげさせるものを常に発見するのであった。

彼らが神の律法に忠誠をつくしているかぎり、彼らの知って、理解を深め、愛する能力は、絶えずまし加わるのであった。彼らは、常に新しい知識の宝庫を手に入れ、新しい幸福の泉を発見し、神のはかり知れない不滅の愛について、ますます、明瞭な観念をいただくようになるのであった。(人類のあけぼの上巻 21～27)

6月2日

クリスチャン家庭の感化力

「わたしに従って来る者は、やみのうちを歩くことがなく、命の光をもつであろう。」(ヨハネ 8:12)

わたしたちの時間、力、エネルギーは神に属しているので、もしそれらがこのお方の奉仕に捧げられるなら、わたしたちの光は輝く。それはまず最も強くわたしたち自身の家庭にいる者、すなわちわたしたちと最も親密に結びついてある者に影響を及ぼす。しかし、それは家庭を超えて「世界」にまで広がるのである。多くの者にとってそれは命から命にいたる香りとなるが、その光を見ることもその中を歩むことも拒む者がいる。彼らは救い主が次のようにお語りになった種類の者である。「そのさばきというのは、光がこの世にきたのに、人々はそのおこないが悪いために、光よりもやみの方を愛したことである」。そのような者は非常に危険な立場にいる。しかし、彼らの行動は、わたしたちのだれにとっても自分の光を輝かせない言い訳とはならない。

ある船が警告の信号灯を無視して岩にぶつかり粉々になり、灯台守がその光を消して、「わたしはこれ以上灯台に注意を払わない」と言うなら、その結果はどうなるか考えてみなさい。しかし、彼はそうしない。彼は、岩や浅瀬の危険な水域に入ってくるすべての水夫の益のために、夜じゅう明かりを燃やし続け、その光線を暗闇のなか遠くまで送るのである。もし明かりが消えていたためにある船が難破したなら、これこれしかじかの夜、この地点で灯台に明かりがなかったために船が岩にぶつかって粉々になったという電信が世界中に送られることになる。しかし、もしある船が灯台の光に注意を払わないで難破したなら、その灯台守は無実である。彼らは警告を受けたが、聞き従わなかったのである。

もし家の中の光が消えていたらどうであろうか。家の中にいる者はみな暗闇

の中におり、灯台の中の光が消えているのと同じようにその結果は悲惨なことになる。クリスチャンの同志よ、魂はあなたがこの世のわずらいで酔っているか、それとも未来の永遠の命のために準備をしているのかを見ている。彼らはあなたの生活の感化力がどうであるか、またあなたが真の伝道者であり、子供たちを天国のために訓練しているかを見張っている。

クリスチャンの最初の義務は家庭における義務である。父親がた、母親がたよ、あなたがたの義務は非常に責任が大きい。あなたがたは子供たちを命のためか、もしくは死のために準備しているのである。あなたがたは彼らをこの地上における住まいのために、すなわちこの世の生涯における自己満足のために訓練しているか、もしくは不死の生涯のために、神を永遠に賛美するために彼らを訓練しているかのいずれかである。そのどちらであろうか。神があなたにお委ねになった一人びとりの子に神聖な型を受けさせることこそ、あなたの人生の重荷となるべきである。(サインズ・オブ・タイムズ 1886 年 1 日 14 日)

6月3日

不信心者が反駁できない論拠

「光のある間に、光の子となるために、光を信じなさい。」(ヨハネ 12:36)

よく秩序立てられたクリスチャン家庭は、無信心者が反駁できない論拠である。彼は難癖をつけること〔つまらないあら捜しをすること〕ができない。そしてそのような家庭の子供たちは不信心者の詭弁に応じる準備ができています。彼らは聖書を自分たちの信仰の基礎として受け入れており、入り込む懐疑論の潮に一掃されることのない堅固な土台を持っている。

キリストは「あなたがたが世の光である」と言われた。このお方はわたしたちが管理するようにとタラントをお委ねになった。わたしたちはこのお方に委ねられた賜物をどのように扱っているであろうか。それらをこのお方の栄光と同胞仲間の益のために用いることによってわたしたちの光を輝かせているであろうか、あるいは自分自身の利己的な利益を促進するために用いているであろうか。多くの人々はそれらを利己的に用いている。彼らはわたしたちがみな裁きを受け、まもなく善を行うために神が賜った機会をどのように用いたかについて会計報告を出さなければならないことを自覚していないようである。しかし、彼らはその大いなる日に、自分たちの技能、教育、気転、また辛抱と熱心を神のみ事業に用いることをせず、どのような言い訳をするつもりであろうか。

わたしたちは自分たちの明かりを燃やし続けたければ、神聖な助けが必要である。しかし、イエスはその助けを備えるために死なれたのである。このお方は、「それを望まないなら、わたしの保護にたよって、わたしと和らぎをなせ、わたしと和らぎをなせ」との招きを差し伸べてくださる。無限の力なるお方のみ腕にすがりつきなさい。そのとき、あなたはこのお方が自分の魂に尊いお方であることを見出し、全天はあなたの意のままである。「神が光の中にいますように、わたしたちも光の中を歩くならば」、わたしたちは聖天使たちの交わりを

得るのである。「ヨシュア」に、「万軍の主は、こう仰せられる、あなたがもし、わたしの道に歩み、わたしの務を守るならば、……ここに立っている者どもの中に行き来することを得させる」と言われた。では、「ここに立っている者ども」とはだれであろうか。それは神の御使たちである。ヨシュアは毎日、神への生きた心からの信頼を持たなければならない。そのとき、御使たちは彼と共に歩み、神の力が彼のすべての働きにおいて彼にとどまるのであった。

そうであれば、クリスチャンの友、父親がた、母親がたよ、あなたがたの光をほの暗くするのであろうか、否、決して!あなたがたの心を弱らせ、その手を弱めるのであろうか、否、決して!そしてついに、天の都の戸はあなたがたに開かれ、「見よ、わたしとあなたがわたしに賜った子らとはここにおります」と言って、自分自身と自分の子供たちを示すことができる。そして忠実さに対する報いは、自分の子供たちが美しい神の都で不死の命をもって冠されるのを見ることなのである。(サインズ・オブ・タイムズ 1886 年 1 日 14 日)

6月4日

天の力あるお方をしっかりつかんで

「われらの神、主の恵みを、われらの上にくだし、われらの手のわざを、われらの上に栄えさせてください。われらの手のわざを栄えさせてください。」(詩篇 90:17)

あなたの子供たちは、自分の気質を制し、愛するキリストのような精神を培うことを教えられるべきである。彼らが神の奉仕を愛するように導き、彼らが娯楽場へ行くよりも礼拝の家に行くことにより大きな喜びを抱くように導きなさい。宗教は生ける原則であることを彼らに教えなさい。わたしが宗教が単なる感情だという概念をもって育てられていたら、わたしの生涯は役に立たないものとなったことであろう。しかし、わたしは感情が天と自分の魂の間に入るのを決して許したことがない。わたしの感情がどうであろうと、生ける力の源から力を引き出すことができるように、わたしは一日の初めと昼と夜に神を求めるのである。

〔母親がたよ〕、……〔あなたの時間〕は、あなたの子供たちの思いを美しいものとし、品性の麗しさを培うものとするために、あなたに与えられたのではなかったか。それは天の大能者をつかむために、また自分の子供たちを天の王国のために訓練し、彼らのためにエホバのみ座が続く限り続く命を確保するために、用いられるべきではないだろうか。……

もしかすると母親は自分の仕事で毎晩毎晩座り込み、子供たちは祈りもおやすみのキスもなく寢床に行っているかもしれない。彼女は彼らのやわらかい心を自分自身の心に愛というひもで結び付けていない。なぜなら、彼女は「忙しすぎる」からである。……

ある人々はなぜわたしたちがそれほどまでに家庭の宗教と子供たちについて述べるのかといぶかしがるかもしれない。それは、あまりに多くの人々の側

で家庭の義務を恐るべきほどになおざりにしているからである。神の僕として、ご両親がたよ、あなたがたは自分の保護に委ねられた子供たちに対して責任がある。彼らのうちの多くは、敬神の念なく育ち、不注意で、宗教心なく、感謝せず、神聖さなく成長している。

もしこれらの子供たちが適切に訓練され、律せられてきたならば、もし彼らが主の薫陶と訓戒とによって育てられたならば、天使たちが彼らの家庭にいたのである。もしあなたがたが真の家庭伝道者であるならば、……あなたがたは……自分の子供たちを神のみ事業における有能な働き人として自分の傍らに立つのにふさわしいものとするはずである。

主の働きと奉仕において一致団結している家庭を見ると、社会にどのような印象を与えることであろう。そのような家族はキリスト教の現実性のために働く力強い説教である。他の人々は、子供に影響を及ぼす家庭において感化力が働いていることを認め、アブラハムの神が彼らと共におられることを見る。そして子供の上にそのような力強い感化力を及ぼすものは、家庭を越えて他の人々の生活にも影響を及ぼす。もしクリスチャンだと公言する人々の家庭に正しい宗教の型があるならば、彼らの善のために力強い感化力を発揮する。彼らは真に「世の光」となるのである。(サインズ・オブ・タイムズ 1886 年 1 月 14 日)

6月5日

キリストは必要な恵みをお与えになる

「われらのむすこたちはその若い時、よく育った草木のようです。われらの娘たちは宮の建物のために刻まれた、すみの柱のようです。」(詩篇 144:12)

母親が創造主に対して負っている第一にして最も急を要する義務は、このお方が自分にお与えになった子供たちをこのお方のために訓練することである。……そうであれば、彼女はこれらの小さな学習者たちの前で、どれほど自分の言葉とふるまいに気をつけるべきであろう。……

母親がたよ、自分の感化力と模範が自分の子供たちの品性と運命に影響を与えているという事実が目覚めなさい。そして自分の責任をかんがみて、均整の取れた思いと純潔な品性を発達させ、ただ真実で、善であり、美しいものだけを反射させなさい。

あなたの同情深い贖い主は、あなたを愛と同情をもって見守り、いつでもあなたの祈りを聞いて、あなたが必要としている援助を与える用意ができておられる。このお方はすべての母親の心の重荷をご存知であり、あらゆる危急時における最上の友であられる。このお方のとこしえのみ腕は神をおそれる忠実な母親を支えて下さる。地上におられたとき、このお方には、貧困と戦い、多くの心配事や困惑のある母親がいた。そしてこのお方は思い煩いや心配事のうちにいる一人びとりのクリスチャンの母親に同情しておられる。娘が悪霊にとらわれた女の案じる心を安堵させるために長旅をされた救い主は、母親の祈りを聞き、その子らを祝福してくださる。

埋葬のために運ばれる一人息子をやもめに返しておやりになったお方は、今日子を失った母親の苦悩を思いやってください。ラザロの墓で同情の涙を流され、マルタとマリヤにその埋葬された弟を返しておやりになったお方、マグダラのマリヤを許されたお方、苦悩のうちに十字架にかかっておられたとき

にご自分の母親を覚えておられたお方、泣いている女たちに姿を現し、彼女たちをよみがえられた救い主の最初の喜ばしい知らせを広める使者とされたお方—このお方は、今日、女の最上の友であられ、人生に関わるあらゆる事において彼女を助けようとしておられる。

わたしたちの救い主は、わたしたちの心の苦闘を理解され、わたしたちの性質の弱さをご存知であり、わたしたちの虚弱に同情され、わたしたちの過ちを許し、わたしたちが真剣に願う求める恵みを授けてくださる。喜び、平和、寛容、善意、信仰、そして愛が、クリスチャン品性の要素である。これらの尊い恵みは御霊の実であり、クリスチャンの冠また盾である。この恵みが家庭の中を治めるとき、息子たちは「その若い時、よく育った草木のようです」。娘たちは「宮の建物のために刻まれたすみの柱のようです」。これらの天来の偉業は、状況によるのではなく、人間の不完全な判断の意志に依存しているのでもない。クリスチャン品性を培うことほど、完全な満足と充実感を与えるものは他にない。最も高められた大志も、これ以上高いものを目指すことはできない。(サインズ・オブ・タイムズ 1886 年 9 月 9 日)

6月6日

キリストは親の重荷を軽減してくださる

「すべて重荷を負うて苦労している者は、わたしのもとにきなさい。あなたがたを休ませてあげよう。……わたしのくびきを負うて、わたしに学びなさい。そうすれば、あなたがたの魂に休みが与えられるであろう。」(マタイ 11:28, 29)

クリスチャンの母親の働きに匹敵する働きはない。彼女は自分の子供たちを主の薫陶と訓戒とによって育てることがどういうことかを自覚しながら、自分の働きにとりかかる。どれほどしばしば、彼女は自分の重荷に耐えられないと感じることであろう。そしてそのとき、すべてを祈りのうちに同情深い自分の救い主に携えていく特権はどれほど尊いことであろう。彼女は自分の重荷をこのお方の足元におき、このお方のご臨在のうちに自分を支え、最もつらいときに自分に快活さ、希望、勇気、そして知恵を与える力を見出すことができる。思いわずらいに疲れた母親にとって、自分のあらゆる困難なときに、このような友がおられることを意識することはどれほどうれしいことであろう。もし母親がもっと頻繁にキリストの許へ行き、このお方をもっと十分に信頼するなら、その重荷はもっと軽くなり、自分の魂に休みを見出すのである。

イエスは子供を愛されるお方である。子供たちを訓練する重要な責任は母親だけに負わされるべきではない。……父親は快活なまなざしと親切な言葉をもって、心労の仕事に携わる母親を励まし、支えるべきである。……彼女の子供たちは、母親の時間と注意を受けなければならない。……聖書の標準に見合った子供の訓練には、時間、辛抱、そして祈りを要する。家の事柄は何かを放っておいても、これは対応しなければならない。

一日のうちに何度も、お母さん、お母さんという声が、まず困っている小さい子から、そして別の子から聞こえてくる。この呼び声に答えるために、母親はあちらこちらに向いて、彼らの要求に応じなければならない。……是認の一

言が、何時間も日光をもたらす。母親は多くの尊い光線と喜びを、自分の大切な小さな者たちの間のそこかしこに降り注ぐことができる。彼女は自分のいという者たちをどれほど密接に自分の心に結びつけ、彼女の存在を彼らにとって世の中で一番日光の明るい場所とすることができることであろう。

しかし、しばしば母親の忍耐に、ほとんど注意を払う価値がないと思えるこれらの数知れない小さな試練で重い負担がかかる。……彼女は幾度となくわれを忘れかけるばかりである。しかし、自分の憐れみ深い贖い主に黙祷をささげて自分の神経をしずめ、彼女は静かな威厳をもって自制の手綱を手放さずにいることができる。彼女は静かな声で語るが、厳しい言葉を抑え、怒りの感情を制するためには努力が必要であった。もしそれらを表現すれば、彼女の感化力を破壊し、それを取り戻すためには時間がかかるのである。……親は神に自分たちを扱ってほしいと望むとおりに、自分の子供たちを扱うべきである。

わたしたちの子供たちは若いだけで主の家族の一員であり、彼らがクリスチャン品性を形成し、この世の生涯で他の人々を祝福し、来るべき生涯を楽しむことができるように賢明に教育し、忍耐強く訓練するためにわたしたちに委ねられた者である。(サイン・オブ・タイムズ 1877年9月13日)

6月7日

従順を教えるべき親

「子たる者よ。主にあつて両親に従いなさい。これは正しいことである。」(エペソ 6:1)

子供たちは自分たちの能力は神の誉れと栄光のために与えられたことを教えられなければならない。この目的のために、彼らは従順という教訓を学ばなければならない。なぜなら自発的な従順の生涯によってのみ、彼らは神が要求なさる奉仕をおさげすることができるからである。子供が物心がつく前に、従うことを教えられなければならない。やさしく辛抱強い努力によって、習慣を築くべきである。……

子供たちに真の敬虔は従順によってあらわされることを示しなさい。神は重要でないことをお命じになったことはなく、このお方の語られたことに対する従順によって敬神を表すこと以上に、このお方をお喜ばせる方法はないのである。

母親は家庭の女王であり、子供たちはその臣民である。彼女は自分の家庭を、母親の尊厳のうちに、賢明に治めるべきである。……自分の子供たちにあなたが何を要求しているかを正確に伝えなさい。それから彼らにあなたの言葉には従わなければならないことを理解させなさい。こうしてあなたは、はっきりと「あなたがたはしなさい」、また「してはならない」と宣言している神の戒めを敬うように彼らを訓練しているのである。

ほとんどの親は従うことを自分の子供に十分早い時期から教え始めることをしない。子供たちが従うことを学ぶには早すぎると考えて訓練を差し控える親が、それを始める前にたいい子供たちは2、3才になってしまう。しかし、この時期には小さい存在の中で自己はすっかり強く成長しており、日々親が支配権を握る仕事は難しくなる。ごく早い時期から、子供たちははっきり単純に語ら

れた言葉を理解することができ、親切で思慮深い管理によって、従うことを教
わることができる。彼らは決して親に対する不敬を表すことを許されるべきでは
ない。自己の意思は決して譴責されずに許してはならない。子供の将来の幸福
には、親切で愛情のこもった、しかし堅固な訓練が要求されている。……

賢明な親は自分の子供たちに「自分の選択に従いなさい。行きたい所へ行
って、やりたいようにやりなさい」とは言わない。かえって「主の教えに聞き従
いなさい」と言うのである。家庭生活の麗しさが損なわれることのないように、
賢明な規則と決まりが作られ、実行されなければならない。……

子供たちは自分たちの抑制されていない衝動のほのめかすままに行動する
ままに放っておかれるよりは、適切な訓練の下にいるほうが幸せ、はるかに幸
せなのである。子供の最も真実な徳は、慎ましさと従順—指示の言葉を聴く
注意深い耳と義務の道に歩み働く手足—のうちにある。……

何にもまして、親は自分の子供たちを快活と礼儀と愛の雰囲気で包むべき
である。愛が宿り、それがまなざしや言葉や行為に表される家庭は、天使た
ちが宿ることを喜ぶ場所である。(両親と教師への勧告 111-115)

6月8日

妻また母親の力なるキリスト

「その子らは立ち上がって彼女を祝し、その夫もまた彼女をほめたたえて言う」
(箴言 31:28)

家庭の機械の輪がいつも順調に回るとは限らないことは事実である。忍耐を試し、力に重い負担をかけることが多くある。しかし、自分ではどうすることもできない状況に対する責任はないが、状況が母親にその一生の働きにおいて大きな違いをもたらすことを認めないことは無駄である。しかし、状況が支配することを許し、自分たちの原則を覆すなら、彼女たちが疲れてきて、自分たちの高い信任に対して不忠実になり、知っている義務をなおざりにするなら、それは彼女たちの責めとなる。

多くの人が忍耐と辛抱強い不屈の精神に欠けているために沈んでしまう困難を、気高く乗り越える妻また母親は、自分の義務を果たすことによって自ら強くなるばかりでなく、誘惑や障害を乗り越える自分の経験によって、他の人を言葉や模範をもって効果的に助ける者にふさわしい資質を得る。順境の下でよくやっている多くの人々は、逆境と試練の下で品性の変化を経験するようである。彼らは自分たちの問題に比例して退化する。神は決してわたしたちが状況の餌食になるようにとは意図しておられない。……

〔真の妻かつ母親〕は、自分の義務を尊厳と快活さをもって果たし、よく秩序立てられた家庭において自分がなす必要のあることは何であつても自分自身の手でなすことを品位を落とすことだとは考えない。もし彼女が自分の力と慰めを求めて神を仰ぐならば、そしてこのお方の知恵と畏れのうちに自分の日々の義務を行うことを求めるならば、彼女は自分の夫を自分の心に結びつけ、自分の子供たちが母親の模範に従う道徳的なスタミナのある成熟した賞賛に値する男女に成長するのを見るのである。

この世の人生に、偶然の働きというものはない。収穫はまいた種の性質によって決まるのである。……

母親がたよ、あなたがたは品性を発達させているのである。あなたの憐れみ深い贖い主は、愛と同情のうちにあなたがたを見守っておられる。あなたがたの祈りを聞き、あなたがたが生涯の働きにおいて必要としている助けを与えようと待っておられる。愛、喜び、平和、寛容、慈愛、信仰、そして愛はキリストのような品性の要素である。これらの尊い恵みは御霊の実である。それらはクリスチャンの冠であり、盾である。最高の空想も最も高められた大志も、これ以上高いものを目指すことはできない。何ものもこれほどの満足と充足を与えるものはない。

これらの天来の偉業は、環境に依存しているのでもなければ、人間の意志や不完全な判断に依存しているのでもない。わたしたちの心の苦闘と性質の弱さを理解しておられる尊い救い主は憐れみ、わたしたちの過ちを許し、そして熱望している恵みを授けてくださる。(健康改革者 1877 年 8 月 1 日)

6月9日

子供たちと過ごす時間を取るべき父親

「父たる者よ。子供をおこらせないで、主の薫陶と訓戒とによって、彼らを育てなさい。」(エペソ 6:4)

わたしたちは母親の働きと使命の重要性を深く論じる一方、夫かつ父親の自分の子供たちの訓練における義務と責任を軽く見過ごすことはしない。彼の努力は神を畏れる母親の努力に調和すべきである。彼は彼女を自分が選んだ女性として、また自分の子供たちの母親として、彼の愛情と敬意を表すべきである。……

父親は、……子供たちと交わり、彼らの小さな問題において彼らに同情し、強い愛情の絆によって彼らを自分の心に結びつけ、彼らの拡張する思いに、父親の勧告を神聖なものだとみなすような感化力を打ち立てるべきである。……

父親は仕事から家に戻って、自分の子供たちといくらか時間を過ごすことが心地よい気分転換であることを見出すべきである。彼は子供たちを庭に連れて行き、彼らに開きつつあるつばみやさまざまな色合いの花が咲いているのを示すことができる。このような媒体を通して、彼は子供たちの前に自然という偉大な書物を開くことによって、創造主に関する最も重要な教訓を与えることができる。そこにはすべての木や花に、草の葉に神の愛が表現されている。彼は子供たちの思いに、神が木々や花々をこれほど心にかけてくださるとすれば、ご自分のかたちにかたどられた被造物にはるかにもっと心にかけてくださるのだという事実を印象づけることができる。神は子供たちが人工的な飾りによってではなく、彼らの心を喜びと幸せではずませる品性の麗しさ、親切と愛情の魅力によって愛らしいものとなることを望んでおられることを、早くから理解するよう導くことができる。

両親は自分の子供たちに神が彼らにお与えになった自然の事物を愛し、自

分たちが受けるすべてのものに与え主のみ手を認めることを奨励することによって、彼らを神に結びつけるために多くのことをなすことができる。心の土壌はこうして早い時期に真理の尊い種をまく準備ができ、時が来れば芽が出て豊かな収穫を実らせるのである。父親がたよ、自分の子供たちの気質や品性と、彼らの若い思いを取り扱う最善の方法を知るために用いることができる黄金の時は、……貴重なものである。(サインズ・オブ・タイムズ 1877年12月6日)

父親の自分の子供に対する義務は、彼の最優先関心事の一つとなるべきである。それは財産を得たり、世の中で高い地位を得るために脇へおかれるべきではない。事実、豊かさや栄誉の状況そのものがしばしば人をその家族から引き離し、そのほかのどんなものよりも彼らに及ぼす彼の感化力をそいでしまう。もし父親が自分の子供たちに均整の取れた品性を発達させ、彼にとっての誉れ、世にとっての祝福になってほしいと望むなら、彼のなすべき特別な働きがある。(同上 1877年12月20日)

6月10日

父親は子供たちを 宗教上の光に導くべきである

「主が家を建てられるのでなければ、建てる者の勤労はむなしい。」(詩篇 127:1)

わたしたちは父親の道徳的な自覚を呼び覚まし、彼らが自分の子らに対する義務を理解し、取りかかるために何を言うことができるであろうか。この問題は非常な利害と重要性をもち、この国の将来の安寧に関わるものである。

わたしたちは母親同様に、父親にも彼らが世に子供たちを送り出す際に負っている重大な責任を厳粛に印象づけたいのである。これは死以外は彼らを放免することのない責任である。事実、母親はその子供たちの最初の数年間、最も重要な配慮と重荷が負わされているが、そのときでさえ、父親は彼女の頼りまた勧告者となって、自分の大きな愛情に頼るよう励まし、彼女をできる限り助けるべきである。……

清算を行う大いなる日に彼は次のように尋ねられる。彼らの唇がわたしの賛美を語り、彼らの命が世における美しい王冠となり、永遠にわたってわたしを尊ぶために生きるよう、わたしのために教育するようにあなたの保護に委ねた子供たちはどこにいるのか。

ある子供は道徳的な力が強く優勢である。彼らには自分の思いや行動を抑制する意志の力がある。他の子供たちにおいては、動物的な感情にほとんど抵抗できない。しばしば同じ家族の中に見られるこれらの様々な気質に応じるためには、母親と同様に父親も神聖な助け手であられるお方からの忍耐と知恵を必要としている。……

父親はしばしば自分の子供たちを周囲に集め、彼らの思いを道徳的また宗教的な光の通路へ導くべきである。彼は彼らの様々な気質や感受性を研究し、

最も明白な手段を通して彼らの心に触れるべきである。ある者は神の崇敬と畏れを通して最も感化を受け、また他の者はこのお方の慈愛や賢明なみ摂理の現れを通して彼らの深い感謝が呼び覚まされ、最も感化を受ける。他の者は自分たちの前に自然界の不思議や神秘があらゆるその繊細な調和と美しさと共に開かれることにより、もっと深い印象を受ける。それらが彼らの魂に天地とそこにあるすべての美しいものの創造主であられるお方について語るのである。

音楽の才能や愛する心を授けられている子供たちは、宗教的な教えのための媒体として、これらの感受性を分別をもって用いるならば、生涯つづく印象を受けることができる。……多くの人々はキリストの生涯や使命の光景を描いた聖なる絵画を通して心に触れることができる。……

家族の規律には統一性があるべき一方で、家族一人ひとりの様々な要求に応えるために、多様性があるべきである。彼らに最高の知性と品性の完全に関心を向ける願望を吹き込む……ことが……親の研究課題となるべきである。
(サインズ・オブ・タイムズ 1877 年 12 月 20 日)

6月11日

両親の働きはどちらも大切

「正しい人のすまいは主に恵まれる。」(箴言 3:33)

神のみ言葉を思慮深く……若い思いに影響を及ぼすようにし、それが彼らの清廉さの標準となり、彼らの過ちをただし、彼らの思いを啓発し導くものとなるべきである。これは衝動的な気質を抑制し支配するのに、怒りを引き起こす厳しい言葉よりもはるかに効果的である。……

太陽のような明るい表情や快活な励ましの言葉は、最も貧しい家庭を明るくし、父親や子供たちを家庭の愛から迷い出させる多くの誘惑から守るお守りのようなものである。……

しかし、家庭を幸せなものにする働きは、母親だけにかかっているのではない。父親にも果たすべき重要な役割がある。夫は家庭の宝の帯留め(ハウス・バンド)であり、彼の強く熱心で献身的な愛情で家族の一人びとりを、母親も子供も一致という最も強い絆で一緒に結ぶのである。彼は母親が子供たちを育てる努力を快活な言葉で励ますべきである。

母親はめったに自分自身の働きを感謝せず、しばしば自分の働きを非常に低く評価し、それを家庭の退屈な仕事だと思っている。彼女は来る日も来る日も、毎週毎週、特別に注目すべき結果もなく同じことを繰り返す。彼女は一日の終わりに自分が成し遂げた数多くの小さい事柄を語るができない。自分の夫の成し遂げたことと比べると、自分は言う価値のあることを何もしなかったと感じるのである。

父親はしばしば自己満足の雰囲気の中に戻ってきて、誇らしげに自分が一日の間に成し遂げたことを数え上げる。……彼女は子供たちの世話をし、食事を作り、家庭を秩序正しく保つこと以外は大したことをしなかった。彼女は売買をする商売人の役割を果たさなかったし、土地を耕すのに農夫としての

役割を果たさなかったし、機械工としての役割を果たさなかった。だから、疲れるようなことは何もしなかった。……

覆いを取り除かれて、父親と母親が一日の働きを神がご覧になるように見、またこのお方の無限の御目が互いの働きをどのように比較しておられるかを見ることができたら、彼らは天来の啓示に驚くことであろう。父親は自分の働きをもっと慎ましい光のうちに眺め、その一方母親は自分の働きを知恵と辛抱強さと忍耐を持って追求するために、新たな勇気と精力を得ることであろう。

今や彼女はその価値を知る。父親が減び、過ぎ去るものを扱っていた間に、母親は発達する思いや品性を扱い、現世のためばかりでなく、永遠のために働いていたのである。彼女の働きは、もし神にあつて忠実になされるならば、不朽のものとなる。(サインズ・オブ・タイムズ 1877 年 9 月 13 日)

6月12日

子供たちは均整の取れた品性を築くべき

「主は高くいらせられ、高い所に住まわれる。……また主は救と知恵と知識を豊かにして、あなたの代を強く立てられる。主を恐れることはその宝である。」
(イザヤ 33:5, 6)

可能な限り好ましくないすべての感化から、子供たちを守りなさい。なぜなら、子供は道徳的な威厳、純粹さ、好ましい品性、あるいはこれらと反対の利己主義、不純、不従順といった性質のどれにも、たやすく感銘をうけるからである。そして一たび不平をいう精神や高慢、虚栄、不純といった性質に感化されてしまうと、その汚点は一生かかってもぬぐうことができないものとなり得る。

青年が正当な権威に服従しながらないのは、家庭における訓練に欠陥があるからである。わたしは母親である。だからわたしが、子供たちを自らの好みにまかせて生活させるよりは健全な制限を加えることが、より安全であるばかりでなく、いっそう幸福であると言っているのは、十分理由があつてのことである。(アドベンチスト・ホーム 537)

すべての親にとって、自分の子供に均整の取れた偏りのない品性を得させることが目的となるべきである。これは大いに重大かつ重要な働き—忍耐強く、辛抱強い努力ばかりでなく、熱心な思考と祈りを要する働き—である。正しい土台がすえられなければならない、強く堅固な型が確立されなければならない。そしてそれから、日々建設し、磨き、完成する働きが進められなければならないのである。(両親と教師への勧告 107, 108)

身体的、知的、霊的能力が適切に均整の取れた品性を形成するために発達させられるべきである。子供たちはこれを成功のうちに成し遂げるために、見守り、保護し、律しなければならない。青年に正しい習慣を形作らせるには、

気転と忍耐強い努力が要求される。しかるべき悪い傾向は注意深く抑制され、やさしく譴責されなければならない。思いは正しいことに有利に働くよう刺激を受けなければならない。子供は自己を治めようとする努力を励まされなければならない。そしてこれらはすべて思慮深く行わなければならない。さもないと、願う目的は挫折するのである。

親は次のように尋ねるであろう。「だれがこれらの事柄に充分であろうか」。神だけが彼らの充足であり、もし彼らがこのお方を度外視して、このお方の助けも勧告も求めないならば、事実、彼らの仕事に希望はない。しかし、祈りによって、聖書研究によって、また自分たちの側の真剣な熱心さによって、彼らはこの重要な義務を気高く成功させることができ、自分たちの時間と心遣いの百倍も報われるのである。……

聖書、すなわち豊かな指示書が彼らの教科書となるべきである。……青年の思いに残される印象は、容易に消すことはできない。そうであれば、これらの印象が正しい種類のものであり、青年のしなやかな機能が正しい方向へ傾くようにすることはどれほど重要であろうか。(教会への証 4 巻 197, 198)

6月13日

祭司としての父親、教師としての母親

「わが子よ、あなたは父の教訓を聞き、母の教を捨ててはならない。」(箴言 1:8)

キリストの心のうちにある愛がわたしたちの心のうちにあるべきである。それによってわたしたちが周囲の人々にそれを表すことができるためである。わたしたちは日々神の深い愛によって強められる必要がある。そしてこの愛をわたしたちの周囲の人々に輝き出させるべきである。……

ご両親がた、あなたは自分の家庭に教会を持っており、神はあなたがたがこの教会に計りしれない天の恵みと制限のない天の力をもたらしように要求しておられる。あなたがたは望むならばこの恵みとこの力を持つことができる。しかし、あなたがたは自らをバプテスマの誓いに従って教育しなければならない。あなたがたがこの誓いをしたとき、自ら御父、御子、聖霊の名によって、神のために生きることを誓ったのである。そしてあなたがたにはこの誓いを破る権利はない。この偉大なお三方の助けはあなたがたの意のままである。

キリストのみ名のうちに、勝利する恵みを求めるとき、それはあなたがたに与えられる。なぜなら、約束は「求めよ、そうすれば、与えられる」だからである(マタイ 7:7)。しかり、神に助けを求めなさい。あなたが困惑するとき、隣人のもとへ行ってはならない。自分の問題を神へ携えていくことを学びなさい。もしあなたがたが探すならば、見出すのである。あなたがたがたたくなら、開けてもらえる。しかし、これは信仰、信仰、信仰を意味する。キリストを信じる生きた信仰を働かせなさい。……

父親は家庭の祭司であり、帯留めである。母親は小さい者たちが乳児の頃からの教師であり、家庭の女王である。彼女は決して軽んじられてはならない。子供たちの前で決して彼女に対する不注意で無関心な言葉が語られてはなら

ない。彼女は彼らの教師である。思想と言葉と行為において、父親はキリストの宗教を表し、自分の子供たちが父親はクリスチャンであることが何を意味するかについて知識を持っていることをはっきりと認めることができるようでないといけない。……

わたしたちの働きにおいて、見かけを取り繕うために奮闘すべきではない。わたしたちはキリストを眺め、わたしたちが神の子と呼ばれるためには、どんなに大きな愛を父から賜わったことか、よく考えてみなければならない。そうするとき、なんという喜び、なんという力がわたしたちに伴うことであろう。それは単に感情の興奮ではなく、深く永続的な喜びである。わたしたちは神のみ言葉の堅固な真理を提示しなければならない。それはこれらの真理が人々の心に印象づけられ、贖い主の足跡に歩むよう男女を導くことができるためである。……

わたしはあなたがたの目に天の目葉が塗られるようにと祈る。それによって何が真理であり、何が誤謬であるかを識別できるようになるためである。わたしたちはキリストの義の白い衣をまとう必要がある。わたしたちは神と歩み、語る必要がある。(原稿 66, 1905 年)

6月14日

家庭生活において 忠実であるべき牧師たち

「子をその行くべき道に従って教えよ、そうすれば年老いても、それを離れることがない。」(箴言 22:6)

父親は家族の大祭司である。自分の妻と子供の魂は神の所有として、彼にとって最高の価値を持つべきであり、彼は彼らの品性の形成を忠実に導くべきである。自分の子供たちの世話は、その幼少のころより、彼が第一に考慮すべきものである。なぜなら、彼らが正しい品性を発達させることは彼らの現在と永遠の益のためだからである。彼は自分の言葉や行動を注意深く量り、それらの感化力とそれらがもたらす結果を考えるべきである。

福音の牧会の働きに携わる者は、自分の家庭生活において忠実でなければならない。父親として家庭を天の家族の象徴とするという目的のために神から授けられたタラントを活用することは、牧会の働きにおいて教会に魂を勝ち取るために神から授けられた力を用いるのと同様に重要不可欠である。家庭の祭司として、また教会におけるキリストの大使として、彼は自分の生活においてキリストのご品性を例証すべきである。彼は説明をする責任がある者として魂を忠実に見守っていなければならない。

このお方の奉仕において、不注意で怠慢な働きが見られてはならない。神は教会の牧師としての地位を引き受けることに伴う神聖な責任のはっきりとした自覚のない人の罪を助けることはなさない。家庭において忠実な識別力を持った牧者となることに失敗する人は、教会における神の群れに対する忠実な牧者となることに必ず失敗する。(原稿 42, 1903 年)

家庭はみな親が牧する教会である。親がまず考えなければならないことは、子供たちの救いのために働くということではない。家庭の祭司であ

り教師である父親と母親が、全くキリストの側にあるとき、良い感化が家庭内に及ぼされる。そしてこの清められた感化力は教会の中にも感じられ、信徒はみなそれに気づく。神を敬う思いと清めとが、家庭の中で非常に欠けているために、神の働きがはなはだしく妨げられている。家庭生活や仕事の中で良い影響を及ぼしていないなら、教会の中で良い影響を及ぼそうとしてもそれは不可能である。……

救いにあずかる人々に奉仕する神のみ使いたちは、あなたがたが自分たちの家族を天の家族のひな型にしようとするのを助けてくれる。家庭の中に平和があるようになさい、そうすれば教会の中も平和になる。(家庭から) 教会の中に持ち込まれるこの貴重な経験は、お互いのやさしい思いやりを育てる手段となるであろう。争いはなくなる。教会員相互の間に、クリスチャンとしての真の礼儀が見られるようになる。世の人々は、彼らがイエスと共にあって、イエスから学んだ者たちであることを知るであろう。もしすべての教会員がクリスチャン的な生活を送るなら、教会は世に対してどんなにかすばらしい印象を与えることであろうか。(家庭の教育 600)

6月15日

子供たちに勧告すべき両親

「わが子よ、悪者があなたを誘っても、それに従ってはならない。」(箴言1:10)

親は自分の子供たちが自分たちに信頼し、彼らの心の悲しみや日々の悩みや試練の重荷を自分たちに打ち明けるように励ますべきである。もし彼らがこうするならば、親は自分の子供たちに同情することを学び、神が彼らを守り、彼らを導いてくださるために彼らのためにまた彼らと共に祈ることができる。親は子供たちに決して失望させない友であり相談者であられるお方を指し示すべきである。このお方は彼らの弱さを思いやる方である。このお方はあらゆる点においてわたしたちと同じように誘惑されたが、罪を犯されなかった。

サタンは子供たちが自分の親には言わずに、自分たちの若くて経験のない仲間打ち明けることを選ぶよう誘惑する。そのような者は彼らを助けることができず、あるいは良い助言を与えることができない。……

子供たちはもし自分の親とずっと親しければ、多くの悪から救われるのである。親は子供たちのうちに親に包み隠さず率直に話す気質を奨励し、子供たちが自分の難問を親のところに持って来るように、そして彼らが正しい道に迷った時に、自分の親の前に自分たちの見るとおりに事態を話し、彼らから助言を求めるようにすべきである。

信心深い両親以外にだが、子供たちの危険を見て、知らせることができらるであろうか。親ほど彼らの子供たちの特殊な気質を理解できる者があるだろうか。幼少の頃より、思いのすべての移り変わりを見てきて、生来の気質を知っている母親は、自分の子供たちに勧告を与えるのに一番よく準備ができています。父親に助けられた母親ほど、阻止し、抑制すべき品性の特質のわかる人があるであろうか。

クリスチャンである子供たちは、地上のどんな祝福にもまさって、神をおそ

れる自分の親の愛と承認を好む。彼らは自分の親を愛し、尊ぶのである。これが彼らの生涯の主要な研究課題の一つである。わたしはどのようにして自分の両親を喜ばせることができるだろうか。訓練されず、正しい教えを受けてこなかった子供たちは、自分の親に対する義務の自覚がほとんどない。……

活発な手や思いは、敵のほめかす一つ一つの誘惑に注意を払う時間を見出すことがない。しかし、怠惰な手や頭脳は、サタンの支配を受ける用意がすっかりできている。であるから、親は怠惰が罪であることを自分の子供たちに教えるべきである。(サインズ・オブ・タイムズ 1878 年 6 月 6 日)

主はご自分の贖われた家族に完全を要求しておられる。このお方は品性建設において完全を求めておられる。父親と母親は、神と協力できるために、特に子供たちを訓練する最善の方法を理解する必要がある。男も女も子供も青年も、自分の家庭生活であらわすものに従って、天の量りではかられるのである。家庭におけるクリスチャンは、どこにいてもクリスチャンである。家庭に持ち込まれる宗教は、計り知れない感化力を発揮する。(SDA バイブル・コメント [E・G・ホワイト・コメント] 5 巻 1085)

6月16日

礼拝において神の指導書を研究する

「あなたは真理の言葉を正しく教え(分け)、恥じるところのない錬達した働き人になって、神に自分をささげるように努めはげみなさい。」(テモテ第二 2:15)

聖書は子供を取り扱う上の指導書である。親がもし望むなら、この中には彼らが何の過ちも犯さないように、子供たちの教育と訓練のために設けられた教育の課程を見いだすことができる。……この指導書に従えば、両親は子供を無制限に甘やかすことなく、もっとしばしばこらしめのむちを用いる。親は彼らの過失や強情な気性に盲目で、彼らの長所だけを見ることなく、明確な識別力をもって、これらのものを聖書の光に照らして見るのである。彼らは子供を正しい方法で制御しなくてはならないことを知るのである。(家庭の教育 265)

神のみ言葉は生活の正しい習慣を形成するための全般的な原則に富んでいる。そして、全般的なまた個人的な証は、これらの原則にもっと特別な注意を払うように意図されている。(教会への証 4 巻 323)

聖書研究に対する興味を起し、これを高めることができるかどうかは礼拝の時間の用い方で大いに左右される。朝夕の礼拝は、一日の中で最も楽しくまた最も有益なひとときでなければならない。礼拝の時には心配ごとや不親切な思いに妨げられてはならないということや、イエスと会うためにまた聖天使たちを家の中に迎えるために親子が集まっているのだということを理解しなければならない。礼拝は、簡単で活気に満ち、折にかない、時々変化のあるものでなければならない。

聖書研究にはみんなが加わり、神の律法を学んで幾度もこれをくりかえさなければならない。子供たちに聖書の読む箇所をえらばせると、彼らの興味が増すであろう。読んだところを子供たちに質問し、また子供たちに質問させ

るとよい。その意味をわからせるのに役立つような例を話して聞かせるがよい。礼拝がこのようにあまり長くならなければ、子供たちにも祈りをさせ、一節でもいいからいっしょに讃美歌をうたうとよい。……

親は毎日子供たちといっしょに聖書を研究する時間を持つべきである。これを実行するためには、努力と計画とある程度の犠牲がたしかに必要なであるが、しかしその努力は十分に報いられるであろう。神の戒めを教える準備として、神は、その戒めを心にたくわえておくように親たちにお命じになっている。「これらの言葉をあなたの心に留め、努めで……これについて語らなければならない。」と、神は仰せになっている。子供たちに聖書への興味を持たせるためには、われわれ自身が興味をもたなければならない。子供たちが聖書研究を好きになるようにさせるには、まずわれわれが好きにならなければならない。われわれが子供たちにあたえる訓戒は、われわれ自身の模範と精神による感化力だけしか重みがないのである。(教育 221, 222)

6月17日

聖書は家族に語る神のみ声である

「見よ、子供たちは神から賜った嗣業であり、胎の実は報いの賜物である。」

(詩篇 127:3)

親に改革が必要であり、牧師に改革が必要である。彼らの家庭に、神が必要である。もし彼らが変化を希望するならば、彼らの家庭に神の言葉を入れ、その勧告に従わなければならない。それは、彼らに語る神の声であり、それに絶対に服従すべきであることを、彼らは子供たちに教えなければならない。親は忍耐深く子供たちを教え、神を喜ばせるためには、どのように生きるべきかを、やさしく、たゆまず教えなければならない。こうした家庭の子供たちは、無神論の詭弁に立ちむかう準備がある。彼らは、聖書を彼らの信仰の基礎として受け入れた。彼らは、懐疑論の潮流に流されない土台を持っている。

あまりにも多くの家庭で、祈りがなおざりにされている。親たちは、朝夕の礼拝をする時間がないと考えている。彼らは、植物を繁茂させる輝く日光や雨、聖天使の保護などの豊かな恵みに対して、神に感謝する時間を少しもさくことをしない。彼らは、神の助けと導きを求め、家庭にイエスがとおどまりになるように、祈りをささげる時間を持たない。彼らは神や天のことを一つも思わずに……仕事へ出て行く。彼らが何の望みもなく、失われることのないように、その贖いとして、神のみ子は生命をお与えになった。人間は、それほど尊い魂を持っている。……

昔の父祖たちのように、神を愛すると告白するものは、どこに天幕を張っても、そこに主の祭壇を築かなければならない。すべての家が祈りの家でなければならない時があるとすれば、それは今である。父親も、母親も、自分たちと子供たちのために、けんそんに願いをなし、心を神にむけなければならない。父親は、家庭の祭司として、朝夕の犠牲を神の祭壇にささげ、妻と子供

たちは、祈りと賛美に加わろう。イエスは、そうした家庭に喜んでとどまられる。

すべてのクリスチヤンの家庭から、清い光が輝き出なければならない。愛は、行動に現わされるべきである。愛は、家庭のすべての交わりにあふれ出て、思いやりとおだやかさと、自分を忘れたやさしさとなってあらわれるべきである。この原則が実行されている家庭がある。それは、神が礼拝され、真の愛が支配している家庭である。これらの家庭から、朝夕の祈りはこうばしいかおりのように、神のみもとにのぼり、神の恵みと祝福は朝露のように祈る者の上に降るのである。(人類のあけぼの上巻 147～149)

家庭で、品性を美しくするものは、天の住まいにおいても美しい品性にするのである。(家庭の教育 521)

6月18日

なおざりにしてはならない家族礼拝

「わたしたちにすべての物を豊かに備えて楽しませて下さる神に、のぞみをお
(き) …なさい」(テモテ第一 6:17)

わたしたちはもし家庭生活と社交生活をクリスチャン宗教の原則によって支配し、それらがキリストの柔和と単純さを例証するならば、もっと幸せで有用なものとなるのである。……わたしたちが快活さや同情や愛によって周囲の人々を幸せにしようとしていることを、訪問客がわかるようにしなさい。

わたしたちは来客に居心地良く楽しくいてもらえるよう努力すべきであるが、神への義務を見過ぎにしてはならない。祈りの時間は、何があってもなおざりにすべきではない。……急がず理解しながら祈ることのできる夕べの早い時間に、嘆願を捧げ、喜ばしい感謝の讃美のうちにあなたの声をあげなさい。クリスチャンを訪れるすべての人が、祈りの時間は一日の内で最も神聖であり、最も貴重であり、最も幸せな時間であることを認めることができるようにしなさい。そのような模範は効果を及ぼさずにはいない。

これらの献身の時間は、参加するすべての人を精錬し、高める感化力を発揮する。正しい考えと新しくより良い願いが、もっとも不注意な人の心のうちに目覚める。祈りの時間は精神の疲れた人に平安とありがたい休息をもたらす。なぜなら、クリスチャン家庭の雰囲気そのものが平安と静穏だからである。

クリスチャンは一つ一つの行動において、自分の主人を表すことを求め、このお方の奉仕が魅力的に見えるようにすべきである。……

非常に多くの人が悩んでいる試練や困惑のうち九割は、想像上のものか自分自身の悪い行動のために引き起こされたものである。彼らはこれらの試練について語ることもそれらを拡大することもやめるべきである。クリスチャンはすべての心配やわずらいを神の許へ持っていくことができる。わたしたちの同情

深い救い主にとって小さすぎてお気づきにならないものではなく、大きすぎて支えきれないものはない。

そうであればわたしたちの心と家庭を整えよう。子供たちに主をおそれることが知恵の始まりであることを教えよう。そして快活で幸福でよく秩序立てられた生活によって、「すべての物を豊かに備えて楽しませて下さる」お方にわたしたちの感謝と愛を表わそう。しかし、何にもまして、わたしたちの思想と心の愛情を、罪深い人間のために苦しみ、それによってわたしたちのために天を開いてくださった親愛なる救い主に固定しよう。

イエスへの愛は隠すことができず、それ自体感じられるものである。それは驚くべき力を発揮する。それは臆病な者を大胆にし、怠惰な者を勤勉にし、無知な者を賢くする。それはどもる舌を雄弁にし、眠っている知性を新しい命と活力に目覚めさせる。それは失望している者を希望のある者とし、陰鬱な者を喜ぶ者とする。キリストへの愛は、それを持つ者にこのお方のための責任と苦勞を引き受けさせ、このお方の力のうちにそれらを担うよう導くのである。(サ
ンズ・オブ・タイムズ 1885 年 12 月 17 日)

6月19日

子供たちの初期の訓練は 彼らの将来の経験を決定的にする

『あなたの父と母とを敬え』。これが第一の戒めであって、次の約束がそれについている、『そうすれば、あなたは幸福になり、地上でながく生きながらえるであろう』。(エペソ 6:2, 3)

子供が人生の初期に受ける教えと訓練にどれほど多くのことがかかっているかを考えるために時間を取る親はほとんどいない。子供たちの品性の基礎が敷かれるのはこの時期である。……

母親がたよ、神があなたの子供たちに継続的な愛の世話を与えることを要求しておられることを忘れてはならない。このお方はあなたが子供たちの奴隷となることを望んでおられるのではなく、彼らのご自分のために生きることを教えるようにと望んでおられるのである。日々、彼らに将来の有用性のために準備する教訓を与えなさい。あなたが繰り返し何度も教えなくてはならない一つの教訓は、従順の教訓である。彼らが支配するのではなく、あなたの希望を尊重すべきであり、あなたの権威に服するべきであることを教えなさい。こうしてあなたがたは彼らに自制を教えているのである。……

子供たちが自制心を失い、感情的な言葉を語るとき、親は少しの間沈黙を守るべきであり、譴責してもとがめてもいけない。そのような時は沈黙が金であり、語ることでできるどんな言葉よりも悔い改めをもたらすのに有益である。サタンは親が厳しい怒りの言葉を語ることによって、自分の子供たちをいらだたせるとき、非常に喜ぶ。パウロはこの点について注意を与えている。「父たる者よ、子供をいらだたせてはいけない。心がいじけるかも知れないから」。彼らは間違っているかもしれないが、彼らに忍耐を切らすことによって正しいことへ導くことはできない。あなたの落ち着きによって、彼らをしかるべき思いのあ

り方に回復するのを助けなさい。

イエスは子供と青年を愛される。このお方はサタンが彼らを打ち負かそうとする努力において撃退されるのをご覧になるとき喜ばれる。多くの青年たちは、種々の誘惑を通して危険のうちにあるが、救い主は彼らを最も優しく同情しておられ、彼らを守り、保護するためにご自分の御使を遣わされる。このお方は良い羊飼いであられ、迷子になりさまよっている羊を探すために荒野に出て行く準備がいつでもできておられる。……

母親がたよ、あなたは伝道地にあこがれてため息をついているであろうか。あなたの家庭の中に、あなたが倦むことのない精力と衰えを知らない熱心さをもって労すべき伝道地がある。あなたの働きの結果は永遠にわたって持続するのである。……キリストと緊密なつながりを持つ母親の働きには無限の価値がある。彼女の愛の伝道は、家庭をベテルとする。キリストは彼女と共に働かれ、人生のふつうの水を天のぶどう酒に変えて下さる。

クリスチャンのご両親がた、あなたには家庭の宗教の力と卓越さを世に示す責任が負わされている。衝動ではなく、原則によって支配されなさい。神があなたがたの助け手であられることを自覚して働きなさい。……このお方によって導かれ、あなたがたの子供たちはこの世と来たるべき世において、あなたを祝福し、尊ぶために成長するのである。(ビュー・アンド・ヘルド 1907年1月24日)

6月20日

神の慈しみ深さを反映する家族

「父がその子供をあわれむように、主はおのれを恐れる者をあわれまれる。」

(詩篇 103:13)

天の日光をあなたの会話の中に持ち込みなさい。励まし元気づける言葉を語ることによって、あなたはキリストの義の日光が、あなたの魂の中に宿っていることを表すのである。子供たちは心地よい言葉を必要としている。彼らの幸福には、自分たちが是認されていることを感じる事が不可欠である。荒々しい表現を克服し、やわらかい声の調子を培うよう奮闘しなさい。神のみ言葉の教訓の中に含まれている美しさを捕え、それを自分の家庭生活の幸福と成功のために重要不可欠なものとして大事にしなさい。幸せな環境の中で、子供たちは芳しく日光のように明るい気質を発達させるのである。

品性の真の美しさは、特別な場合だけに輝き出るものではない。魂のうちにやどるキリストの恵みはあらゆる環境下で表されるのである。この恵みを生活の中で永続的に存在するものとして抱いている人は、容易な環境下と同様に厳しい環境下でも品性のうちに麗しさを表す。家庭において、世において、教会において、わたしたちはキリストの命を生きるべきである。わたしたちの周囲のいたるところに、改心を必要としている魂がいる。神の律法が心に記され、聖なる品性のうちに目撃されるとき、キリストの恵みの力を知らない人々は、それを望むように導かれ、改心するようになる。

今、天上の法廷では、厳粛な審査が行われている。今、天でなされている決定を考えると、親は自分の子供たちを神へのおそれと愛のうちに勤勉に訓練する必要性を強く感じるべきである。悪い行為に対する厳しい言葉や罰によってではなく、見守りと祈りによってほとんどのことが成し遂げられる。さもないと敵のわなによって彼らが奪われてしまう。……

この時代のための真理の知識を持っているすべての家族は、それをほかの人々に知らせるべきである。主の民は、特別な働きを成すための準備ができているべきである。家族の年長の者と同様に子供たちも、滅びつつある人々を救うおうとすることにおいて自分たちの役割を果たすべきである。キリストは若い頃より、交わるすべての人々を、より高い事柄に向かって引きつける感化力をもっておられた。今日の青年たちも神に魂を引きつける善への力を発揮することができる。

親は神が自分たちに課された責任と誉れ、すなわち子供にとって自分たちを神ご自身を代表するものとされたことをもつと十分に評価する必要がある。日常生活の接触の中で表される品性は、子供たちに、良きにつけ悪しきにつけ、神のみ言葉を解説するものとなる。

「父がその子をあわれむように、主は、ご自分を恐れる者をあわれまれる」(詩編 103:13)。

「母のその子を慰めるように、わたしもあなたがたを慰める」(イザヤ 66:13)。(サイン・オブ・タイムズ 1911 年 11 月 14 日)

6月21日

家庭における優しさと忍耐

「母のその子を慰めるように、わたしもあなたがたを慰める。」(イザヤ 66:13)

家庭はすべての天来の恵みが発達できる場所である。主は、家庭の宗教をはぐくみ、また讃美と快活の精神が統治する家族と共に宿ることを喜ばれる。このお方の民はキリストの宗教の基礎となる原則を理解し、これらの原則をどのように生活を支配する要素とするかを研究する必要がある。これによって、家庭が日光で満たされる。信仰の実は、キリストのための真の奉仕のうちに見られるようになる。

柔和でへりくだったイエスに従うことを公言する者として、クリスチャンの両親は決して気分が自分たちを支配してしまうことがないようにすべきである。決して自分の子供たちを性急にあるいは怒りのうちに打つべきではない。彼らが悪いことをして、矯正する必要があるとき、祈りのうちに問題を神の許へ持っていきなさい。主の前にひざまずき、あなたの御父に、主の御霊が悲しまれたがゆえのあなたの悲しみを述べなさい。あなたの子供たちを訓練する際の神の祝福と導きを求めなさい。……神なる御霊の助けを通して、親が彼らの若い心を神に向けさせることに成功するとき、神と御使たちは喜ぶ。

親は日々のふるまいのうちに、自分の子供たちが従う模範を残していることを覚えていなさい。……叱っても、クリスチャン品性を形成するために何もなし得ないことを覚えていなさい。それによって改革がもたらされたり、青年たちがキリストの選ばれた者になりたいという願いを持つように導かれたりすることはない。

優しさと忍耐によって、あなたの子供たちを悪から勝ち取るように努めなさい。彼らがあなたを愛し、神を愛するように訓練するための知恵を神に求めな

さい。彼らの願いを拒否する必要があるときには、親切にそうすることによって、彼らの最高の善を求めているのだということを示しなさい。自分の子供たちを愛し、大事にしなさい。しかし、彼らが自分自身のやり方に従うことを許してはならない。なぜなら、それはわたしたちの生存している時代ののろいだからである。彼らがどこで間違いを犯したかを示し、それらの悪を正さなければ、彼らは決してイエスがご自分を愛する人々のために用意しておられる住まいに場所を得ることができないことを教えなさい。この方法によって、あなたは彼らの愛と信用を保つことになる。……

子供と青年たちは快活な模範の感化力を必要としている。彼らは気持ちの良い教えを必要としている。……クリスチャンの親は忍耐と寛容の模範によって、キリストを信じる信徒の生活の中に悪い気質や辛辣さの場所はないこと、これらの資質は神にとってご不快であることを教えなければならない。あなたがたが自分の生活に真理の原則を持ち込んでいることをあなたがたの子供が見るとき、彼らもまた悪い習慣やならわしに対抗して戦うように導かれ、あなたと共に神のいつくしみ深さと愛を反映するようになる。(サインズ・オブ・タイムズ 1911 年 11 月 14 日)

6月22日

遊びよりすぐれた有益な職業

「神はわたしに力を帯びさせ、わたしの道を安全にされました。」(詩篇18:32)

男女を教育し、自分の子供たちを偽りや流行の習慣なしに育て、有益な者になることを教えさせなさい。娘は母親の下で、家の中ばかりでなく、戸外での働きにおいても有益な働きをなすべきことを教育されるべきである。母親はまた、息子をある年齢まで、家の中や戸外で有益なことをするよう訓練することができる。

わたしたちの世の中には、なすべき有益かつ必要な事柄が豊かにあり、娯楽的な運動をほとんどまったく必要としていない。頭脳、骨、筋肉は善をなそうと良く考え、目的をもって用いるときに、また、知力と身体的な器官の強さを発達させるために、青年たちを訓練する計画を考案するときに、堅実さと強さを得る。それによって青年たちが神に栄光を帰すことができるように神が与えてくださったタラントを実際的に用いることになる。

これがわたしたちの健康施設や大学の前に、わたしたちのうちにこれらが建設されなければならない強力な理由として示されてきた。しかし、わたしたちの時代もノアやロトの時代と同じであった。人々は数多く考案し、神のご目的とこのお方の方法から大きく離れることを求めてきた。

わたしは単純なボール遊びの運動を責めることはしない。しかし、その単純さにおいてさえ、これはやりすぎることもある。わたしはいつもこれらの娯楽に続いて起こる確かな結果を恐れる。それはキリストなしに滅びつつある魂に真理の光を伝えるために費やされるべき資金の出費へとつながる。娯楽や自己を喜ばせるための資金の支出は、一步一步自己満足へと導き、楽しみのためのこれらのゲームによる教育はクリスチャン品性の完全に好ましくない事

柄への愛着や情欲を生むのである。……

いたるところで苦しむ人類が助けを必要としている。学生たちは折りになかった言葉を語ることによって、また肉体労働さえ必要としている人々のために手を貸すことによって、心に通じる道を開くことができる。これによって、……神の是認を得ているという自覚がもたらされる。それによってあなたがたに賢く用いるようにと委ねられたタラントを両替人に持っていくのである。……

魂と体の両方にとって益となるように計画できる健康的な運動の方法がある。……青年たちが他の人々にとって有益な者となり、彼らの労働を軽くすることができるように、……学生の思いをしばしば男女の尊厳からはみ出させてしまう楽しみや浮かれ騒ぎから転じて、神が彼らにお与えになった筋肉と頭脳を用いて善をなそうと努めることはつねにわたしたちの義務である。……主は思いが高められ、より高く高尚な有用性の水路となることを求めるよう望んでおられる。(セクレット・メッセージ 2 卷 321 ～ 324)

6月23日

子供たちに神との共労者となるよう教える

「主の道は直く、正しき者はこれを歩む。」(ホセア 14:9)

クリスチャンの生涯において、この世の事柄、誇りという偶像、浪費、自己放縱の場所はない。神は目を利己的な目的のために用いるようには形づくられなかった。このお方は救い主がわたしたちの喜びのために創造されたみわざのうちにこのお方を眺め、賞賛することができるために視力をお与えになったのである。

子供たちがわたしたちの学校の一つに出席する準備をするとき、賢明な親は、彼らが学校生活において宇宙の墮落したことの無い存在者との交わりにふさわしい品性を形成するために奮闘すべきことを理解するよう助ける。そしてこれは彼らがキリストの与えてくださる勝利する力を通してのみできるのである。このお方の恵みなしに、だれもキリストのような品性を形成することはできない。

ご両親がた、あなたの子供たちに教会においてあなたがたと共に働く働き人になることを教えなさい。彼らを神と共に働く働き人になることを喜ぶような方法で教育しなさい。彼らの思いに、年を重ねるにつれ、彼らの奉仕のための機会は拡張し、彼らの力と能力は比例して増し加わるのだという考えを印象づけなさい。神に献身する人々は神を知らない人々にとって祝福の水路となるのだということを彼らに理解させなさい。彼らにどのようにして神に勝つ力を持つかを教えなさい。もしこれが一人びとりの親によって忠実になされるならば、わたしたちは至るところに献身した働き人を見るようになる。(原稿 67, 1903 年)

教会員は、年寄りも若い者も、この最後の使命を世にのべ伝えるために出ていくべきである。彼らがへりくだった心をもって出かけるとき、天使たちは彼

らと共に行き、どのように祈り、どのように歌い、どのように現代の福音のメッセージを宣布したらよいかを彼らに教えるのである。(青年への使命 213)

聖書研究を授けることは天来の考えである。そこには幾百の若い男女のなすべき大切な働きの分野へいたる道が開かれている。この大切な働きは、他の方法ではなすことができないのである。

聖書は鎖につながれていない。わたしたちは聖書をどこの家へでも持って行くことができ、その真理をどんな人の良心にも示すことができる。世間には感心なベレヤ人たちのように、真理が示されると、それが本当であるかどうかを調べるために聖書を研究する人がたくさんいる。……世の救い主イエスは聖書をただ読むばかりでなく「しらべよ」と言っておられる。聖書研究を授けることは大事な働きで、しかもそれはわたしたちにゆだねられているのである。わたしたちはこの働きをなすときに大いに益を受ける。なぜならキリストのご命令に従う者には、必ずその報いがあたえられるからである。キリストのみことばのうちに示されている光に忠実に従うこの行為には、特別な恩恵のしるしが表わされる。(同上 215, 216)

6月24日

愛の絆に結ばれた家族

「彼女は口を開いて知恵を語る、その舌にはいつくしみの教がある。」(箴言 31:26)

母親は自分の子供の良い行為に対するほめ言葉を語ることができるときは、そうすべきである。彼女は子供たちを是認の言葉や愛のまなざしによって励ますことができる。これらは子供の心にとって日光のようなものであり、自尊心と品性の誇りを培うようにと導くのである。……

子供は感受性が強く、愛する性質を持っている。たやすく喜び、またたやすく悲しくなる。愛の言葉や行為によるやさしいしつけによって、母親は自分の子供たちを自分の心に結びつけることができる。厳しさを表したり、子供たちに強要することは大きな過ちである。一貫した堅固さと情に動かされない支配とはすべての家族の統制に必要である。あなたの真意を静かに語り、思慮深く行動し、逸脱することなくあなたが語ったことを実行しなさい。

自分の子供たちとの交わりにおいて愛情を表すとき、報われる。彼らの子供らしい気晴らしや喜びや悲しみにおける同情が足りないために、彼らを遠ざけてはならない。(教会への証 3 巻 532)

幼い子供たちは母親にとって鏡であり、自分自身の習慣やふるまいが彼らのうちに反映しているのを見、彼女自身の声までたどることができる。そうであれば、彼女が自分を模範としているこれらの小さい学び人のいるところで自分の言葉や行為にどれほど注意深くあるべきことであろう。もし彼女が自分の子供たちに、ふるまいにおいてやさしく従順であることを望むなら、自分自身のうちにこれらの特質を培わなければならない。

子供たちが自分の母親を愛し、信頼をおき、母親に従順になったならば、彼らはクリスチャンになるための最初の教訓を教わったということである。……

母親の個々の責任を考えると、すべての女性はよく均整の取れた思いと純粋な品性を発達させ、真実なこと、善なること、また美しいものだけを反映すべきである。妻であり母親である者は、優しい言葉や礼儀正しいふるまいに表される絶え間ない愛情によって夫や子供たちを自分の心に結びつけることができる。そして必然的に、それらは彼女の子供たちに模倣されるのである。

礼儀は安価なものであるが、それは固く荒々しくなる性質を和らげる力がある。クリスチャンの礼儀がすべての家庭内に行き渡るべきである。変わらない礼儀の涵養（かんよう）と、他の人々からしてほしいと思うことを自分たちがしようとする志は、人生の苦しみの半分を消滅させる。「兄弟の愛をもって互にいつくしみ」という命令の中に繰り返し教えられている原則は、クリスチャン品性の隅のかしら石である。……クリスチャンの礼儀は家族の一人びとりを、毎日さらに近く強くなる愛の絆のうちに結合させる黄金の留め金である。（健康改革者 1877 年 8 月）

6月25日

礼儀が家庭に行き渡るべき

「愛には偽りがあってはならない。……兄弟の愛をもって互にいつくしみ、進んで互に尊敬し合いなさい。」(ローマ 12:9, 10)

「兄弟の愛をもって互にいつくしみ」という命令の中に繰り返し教えられている原則は、家庭内の幸福の基礎そのものとして敷かれている。クリスチャンの礼儀がすべての家庭内に行き渡るべきである。……妻であり母親である者は、もし夫や子供たちとの交わりにおいて変わらない愛を優しい言葉や礼儀正しいふるまいのうちに表すならば、愛という強い紐で彼らの心を自分自身の心に結び付けることができる。

同じ家族の中にしばしば気質や品性の顕著な多様性が存在する。なぜなら、様々な気質の人々が共に交わることが神の秩序内にあるからである。その場合、家族の一人びとりは他の人々の気持ちを侵すことがないように留意し、彼らの権利を尊重すべきである。この方法によって相互の配慮と寛容が培われ、偏見がやわらげられ、品性の荒い部分が円くされる。調和が確保され、様々な気質が交じり合うことが互いに益となるのである。……

〔真の妻かつ母親〕は、自分の義務を尊厳と快活さをもって果たし、よく秩序立てられた家庭において自分がなす必要のあることは何であつても自分自身の手でなすことを品位を落とすことだとは考えない。

良い妻となるために、女性の性質が完全にその夫の性質に没入する必要はない。すべての個人には、他の人々とは区別された人生と、本質的に異なった経験がある。わたしたちの個性が他の人の個性の中に失われてしまうことは、わたしたちの創造主のご計画ではない。このお方はわたしたちがご自分の芳しい恵みによってやわらげられ聖化された自分自身の品性を持つことを望んでおられる。このお方はわたしたち自身の心からの新鮮な言葉を聞きたいと願って

おられる。このお方はわたしたちが自分自身の個性によって特徴づけられた切望する願いと熱心な叫びがご自分の許へ上ってくるよう願っておられる。すべての人が同じ思いの働きを持っているわけではなく、神はまた聞きの経験を求めておられるのではない。わたしたちの憐れみ深い贖い主は、まさにわたしたちのいるところでわたしたちに助けのみ手を伸ばされる。

もし女性が力と慰めを求めて神を仰ぎ、このお方への畏れのうちに自分の日々の義務を果たすことを求めるならば、彼女は夫の敬意と信頼を勝ち取り、自分の子供たちが正しいことを行うことのできる道徳的スタミナをもって成熟した賞賛に値する男女へ成長するのを見ることができる。……

母親が自分の子供たちの信頼を得て、彼女を愛し従うことを教えるとき、クリスチャン生涯の最初の教訓を与えたことになる。彼らは、自分の親を愛し信頼し従うように、自分の救い主を愛し信頼し従わなければならない。忠実な保護と正しい訓練において両親が子供たちに表す愛は、イエスがご自分の忠実な民に表される愛をかすかに映している。(サインズ・オブ・タイムズ 1886 年 9 月 9 日)

6月26日

家庭における快活さは 幸福を増進する

「こちよ言葉は蜂蜜のように、魂に甘く、からだを健やかにする。」(箴言 16:24)

母は快活な、満足した、愉快的な性質を養うべきである。そのために払う努力はすべて子供の肉体の健康と道徳的な性質の上に豊かに報いられる。快活な精神はその家族の幸福を増進し、自分自身の健康をも増大する。

夫は同情と不変の愛情をもってその妻を助けるべきである。もし妻を家庭の太陽のように、はつらつとうれしそうにしておきたければ、夫は妻が重荷を負うのを助けなさい。夫の親切と愛にみちた礼儀は彼女にとって尊い励ましとなり、夫が与えた幸福は夫自身の心にも喜びと平安をもたらす。……

子供に対して、神の代りにならなければならない父や母の名誉と責任は大きなものである。その品性と日常生活および教育法が幼い子供に向かって神の言葉を説明するのであって、その感化こそ子供に神の保証を確信させるか、失わせるかのどちらかである。

生活態度に真に神をあらわし、神の約束やいましめが子供の心に感謝と敬神の念を起させる両親、優美、正義、忍耐によって神の愛と正義と忍耐を子供に伝える両親、愛し、信頼し、服従することを子供に教えることによって天の父を愛し、信頼し、服従するように教えている両親は幸福である。こうしたたまものを子供に与える親は、世のどんな宝よりも尊い宝、永遠に残る宝を子供に授けることになる。

どの母親も自分に託された子供のことで、神から与えられた神聖な責任を持っている。「このむすこ、娘をわたしのために教育しなさい。永遠に神の宮で輝くようにその品性を宮殿のようにみがきなさい」と、神は言っておられる。……

天には神がおられ、そのみ座から出る光と栄光は子供が悪の力に抵抗できるようにと教育に努力している忠実な母親の上にくだる。これほど重要な働きはほかにはない。……

このことを理解している母親は与えられた好機をこの上もない尊いものと考えよう。そして自分自身の品性と教育法によって、その子供に最高の理想を示そうと熱心に努力する。……勤勉に神の言葉を学び、卑しい仕事や義務を繰り返していく間に、日常の経験が唯一の真の生命であるキリストをほんとうに反映することができるように、キリストを注視していくのである。(ミストリー・オブ・ヒーリング 345 ～ 348)

6月27日

父から子へと伝えられる偉大な真理

「王はその家のつかさとして、その所有をことごとくつかさどらせ、その心のまに君たちを教えさせ、長老たちに知恵を授けさせた。」(詩篇 105:21, 22)

ヨセフは、少年時代に、神を愛しおそれることを教えられた。シリヤの星空のもとに張られた天幕の中で、彼は父のヤコブから、ベテルの夜の異象、天と地の間にかけられたはしごやそれを上り降りしていた天使たちや天のみ座からご自身をヤコブに表わした神についての物語をきかされた。父がヤボクの河畔で格闘したあげく、心の中に宿っていた罪を絶ったときに勝利者となり、「神と共なる君」という称号をうけた物語もきかされた。

羊飼いの少年として、父の羊の群れの見張りをしていたヨセフの純朴な生活は、彼に体力と知力の発達をもたらした。ヨセフは、自然を通して神と交わり、聖なる委託物として父から子へ伝えられたとうい真理を学んで、堅実な精神と確固たる原則を身につけた。

ヨセフが、人生の危機に面したとき、すなわち子供時代をすごしたカナンのがが家から、奴隷の運命が待ちうけているエジプトへの恐ろしい旅の途中に、肉親の住む天幕のかくれた山々を見納めたときに、かれは父ヤコブの神を心に覚えていた。少年時代の教訓を思い出し、真実な人間になって、どんなときにも天の王の臣下としてふさわしい行動をとらなければならないと決心したときに彼の魂は感動した。

他国人としてまた奴隷としてのつらい生活の中にあっても、見るもの聞くもののすべてが悪徳と偶像礼拝、人の心をひきつけないではおかぬ富と文化と王室の盛観にかこまれた礼拝の誘惑のさなかにあっても、ヨセフは動揺しなかった。彼は、義務に服従するという教訓を学んでいた。最も低い境遇から最も高い身分にいたるまでどんな立場にも忠実であることによって、あらゆ

る能力が最高の奉仕のために訓練された。

ヨセフがパロの宮殿に召された当時のエジプトは、世界で最もすぐれた国家であった。文化に芸術に、学問に、エジプトは比類のない存在であった。最も困難な、そして危険な時期に、ヨセフはこの王国の政務をとり、しかも彼の施政は、王国と人民の信頼を勝ち得た。パロは彼を「その家のつかさとしてその所有をことごとくつかさどらせ、その心のままに君たちを教えさせ、長老たちに知恵を授けさせた」とある。……

神への忠誠、目に見えない神への信仰が、ヨセフの錨であった。ここに彼の能力がかくされていた。

「かれの手の力は、ヤコブの神の大いなるみ手によって強くされた。」……

ヨセフとダニエルは、……幼いころにしつけられた原則にそむかず、自分の代表している神に忠実であることを立証した。(教育 48 ～ 53)

6月28日

父としてのアブラハムの模範

『わたしは彼が後の子らと家族とに命じて主の道を守らせ、正義と公道とを行わせるために彼を知ったのである。これは主がかつてアブラハムについて言った事を彼の上に臨ませるためである』。(創世記 18:19)

アブラハムについては、「彼は『神の友』と唱えられ」「信じて義とされるにいたるすべての人の父」としてされている(ヤコブ 2:23, ローマ 4:11)。この忠実な父祖アブラハムについて、神ご自身このようにあかしされた。「アブラハムがわたしの言葉にしたがってわたしのさとしと、いましめと、さだめと、おきてとを守った」(創世記 26:5)。……アブラハムは、非常に名誉ある召しを受けた。彼は、世界に対して、数世紀間にわたって神の真理の擁護者、また、保持者となる民族の父となり、その民族のなかから、地のすべての国々を祝福する約束のメシヤが来臨なさるのであった。

しかし、アブラハムを召された神は、彼の価値を認められた。語られるのは神である。人の思いを遠くから知り、人を正しく評価される神は、「わたしは彼を知ったのである」といわれる。アブラハムの側においては、利己的目的のために、真理を裏切ることにはなかった。彼は、律法を守り、公明正大にふるまうであろう。彼は、自分自身が主を恐れるだけでなく、家庭のなかで宗教をはぐくむであろう。彼は、義をもって、家族を教える。神の律法が彼の家の規則になるのであった。

アブラハムの家には、千人以上の人々がいた。彼の教えを受けて、ひとりの神を礼拝するようになったものは彼の天幕に住むようになった。そして、彼らは、ちょうど学校のように、ここで真の信仰の代表者となるための教育を受けた。こうして、彼の上に、大きな責任が負わせられた。彼は、家族のかしらたちを教育していた。そして、彼の管理の方法は、彼らが治める各家庭で実

行されるのであった。……

アブラハムは、この家長制度の組織を永続させようと努力した。各地に広く行きわたって、深く根をおろした偶像礼拝に対する防壁を築くために、家族の全員をまとめることが必要であった。罪惡に親しむならば、知らず知らずのうちに原則を犯すようになることを、アブラハムは知っていたので、彼の天幕の住人たちが、異教徒と交わり、偶像礼拝の習慣を見ることがないように、あらゆる方法によって彼らを守ろうとした。彼は、偽りの宗教のどんな形のものも閉め出し、真の礼拝の対象である生きた神の栄光と威嚴を人々の心に深く印象づけようと最大の注意を払ったのである。……

アブラハムは、彼の子供たちと家族を愛していたので、彼らの信仰を保護し、彼が彼らに与えることのできる最も尊い遺産として、神の律法の知識を彼らに教えた。これは、彼らが世界に伝えるべきものであった。すべての者が、天の神の統治下にあることを教えられた。親が子供を圧迫したり、子供が不従順であったりしてはならなかった。神の律法が各自の義務を示していたから、それに服従するものだけが、幸福と繁栄を得ることができた。(人類のあけぼの上巻 143 ～ 146)

6月29日

アブラハムは神のみ声に従った

『『アブラハムがわたしの言葉にしたがってわたしのさとしと、いましめと、さだめと、おきてとを守ったからである。』』（創世記 26:5）

彼〔アブラハム〕自身の模範、彼の日常生活の無言の感化は、不断の教訓であった。王たちの賞賛をかちえたゆるがない高潔な精神、慈愛と無我の精神による親切は、家庭でも発揮された。生活に芳香がたどよい、品性の気高さと美しさとは、彼が天と結ばれていることをすべての者にあらわした。彼は、どんなに卑しい身分の奴隷の魂も軽視しなかった。彼の家では、主人としてもべを別々に扱い、金持ちと貧者を区別して扱う規則はなかった。だれもが、彼とともに生命の恩恵を受け継ぐ者として、公平と同情をもって扱われた。

アブラハムは、「家族に命じ」た。彼は、子供たちの悪の傾向を放任するような恐ろしいことをせず、大目に見て、えこひいきをするような愚かさや弱さもなく、また、誤った愛情におぼれて、自分の義務を曲げることもなかった。彼は、正しい教育を施したばかりでなく、公正と義の律法の権威を保ったのである。

今日、彼の模範にならう者がいかに少ないことであろう。多くの親たちは、盲目的で、利己的な感傷とまちがった愛情に陥り、子供たちが彼らのまだ十分に成長していない判断力と訓練されていない欲望とをほしいままにするのを放任している。これは、青年たちにとって、全く残酷なことであり、世界にとって、大きな罪である。家庭と社会の無秩序の原因は、親の怠慢にある。それは神の要求に従うかわりに、青年たちの好むままを行なう欲求をますます強固にする。こうして、彼らは神のみこころを行なうことをぎらって成長し、その非宗教的で不従順な性質を彼らの子孫に伝える。親は、アブラハムのように、家族に服従を命じる必要がある。神の権威に服従する第一歩として、親の権威に服従することを教えて実行させよう。……

神の清い律法の要求を低下させようとする人々は、家族と国家の組織の根底に直接攻撃を加える。信仰は持っていても神の律法に従っていない親は、主の道を守るように家族に命じない。神の律法が、生活の規準にされていない。子供たちが、それぞれの家庭を築くときに、彼ら自身が教えられなかったことを子供たちに教える義務は感じない。今日、不信仰な家庭がこんなに多いのはそのためである。……

親自身が、全心をこめて、主の律法に従って歩かないかぎり、子供たちに服従を命じることはできない。この点に改革が必要で、深く、広い改革が行なわれなければならない。(人類のあけぼの上巻 146, 147)

6月30日

ハンナとサムエルの幼年時代

「わらべサムエルは育っていき、主にも、人々にも、ますます愛せられた。」(サムエル記上 2:26)

自分の子供を主に捧げるというハンナの誓いは、彼が聖所におらせることができるようになるまで延ばされなかった。物心がつくごく当初から彼女は彼の幼い思いを、神を愛し敬うように訓練し、彼自身を主のものとみなした。彼の周囲にあるなじみ深いすべてのものによって、彼女は彼の思想を創造主に導いた。

自分の子供から離れるとき、この忠実な母親の配慮はやまなかった。彼が彼女の祈りの対象であった。毎年、彼女は彼に小さな上着を作り、夫と共に年毎の犠牲のために来るとき、それを自分の愛のしるしとして子供に贈った。彼女は上着を作る一針ごとに彼が純潔で高潔で真実であるようにとの祈りを呼吸したのであった。彼女は彼が偉大になるようにと求めたのではなく、彼が善良になることを熱心に嘆願した。

彼女の祈りと献身は報われた。彼女は自分の息子が幼年期の単純さにおいて、神の愛と畏れのうちに歩んでいるのを見た。彼女は彼が神と人から愛され、謙遜に、敬神深く、速やかに義務を行い、自分の神なる主人の奉仕において熱心なものとして成長し、成人になるのを見た。……

すべての母親が自分の義務と責任がどれほど大きいのか、そして忠実の報いがどれほど大きいかを自覚すればよいのだが。母親が日々自分の子供たちに及ぼす感化力は、彼らを永遠の命かもしくは永遠の死のどちらかに準備している。彼女は家庭において、説教壇に立つ牧師以上に、あるいは王座につく王以上に決定的な力を発揮する。神の日に、真理と改革の揺るがない擁護者であった人々―ことをなし、勇気のあった人々、試練と誘惑のただ中で揺れ動

くことなく立っていた人々、世の誉れや命そのものよりも、真理の高く聖なる利益と神の栄光を選んだ人々々のために、世はどれほど信心深い母親に負うところが大きかったかが明らかにされるのである。

裁き主が座につき、数々の書物が開かれるとき、大いなる裁き主から「よくやった」との宣言がなされ、不死の栄光の冠が勝利者の額におかれるとき、多くの人々は集まった全宇宙の前で自分の冠を上げ、自分の母親を指さして、「彼女が神の恵みを通して、このわたしにしたのです。彼女の教え、彼女の祈りがわたしの永遠の救いへと祝福をもたらしたのです」と言うのである。サムエルは、神が品性を評価されるとおりに、完全な意味において偉大な人となった。……青年は蔓延している悪のただ中で善のために固く立ち、力を尽くして悪の前進を阻み、徳と純潔と真の高潔さを促進するよう訓練されるべきである。人生の初期に思いと品性に与えられた印象は深く永続的である。(サメ・オブ・ダムズ 1881 年 11 月 3 日)

研究 12

三重のメッセージ



第二天使のメッセージ

Part 4

バビロン捕囚とそこからの解放

バビロン捕囚は、人々がすでに自分からすすんでわが身を置いているくびきの目に見える表現にすぎません。彼らは自分たちが自由だとうぬぼれていますが、「彼ら自身は滅亡の奴隷になっている。おおよそ、人は征服者の奴隷となるものである」(ペテロ第二 2:19)。「すべて罪を犯す者は罪の奴隷である」(ヨハネ 8:34)。肉体的な奴隷のくびきは、魂のくびきに比較するとき大したことではありません。イスラエルがバビロンに引きつれられたのは、まさに顕著な実例でした。他のどこでもなく、バビロンに連れ去られたのは、偶然ではありませんでした。バビロンーバベルは混乱を意味していますが、それは自己賞揚と誇りによって生じる混乱です。「ねたみと党派心とのあるところには、混乱とあらゆる忌むべき行為とがある」(ヤコブ 3:16)。

「イスラエルが神に忠実であつたら、神は彼らに栄えとほまれとを与えることによって、みこころをなしとげることがおできになったのである。もし彼らが服従の道を歩いたら、神は彼らに『ほまれと良き名と栄えとを与えて、主の造られたすべての国民にまさるものとされ』たのである。『そうすれば地のすべての民は皆あなたが主の名をもって唱えられるのを見てあなたをおそれるであろう』『彼らはこのもろもろの定めをきいて、「この大いなる国民は、まことに知恵あり、知識ある国民である」と言うであろう』とモーセは言った(申命記 26:19, 28:10, 4:6)。しかしイスラエルが不忠実であつたために、神のみこころはうちつづく逆境と屈

辱とを通してのみ達成されるよりほかなかった。イスラエルはバビロンに屈服し、異教徒の地に離散させられた。苦悩のうちにあって、多くの者が神の契約への忠誠を新たにした。」(各時代の希望上巻 15, 16)

「バビロンのうちからのがれ出て、おのおのその命を救え。その罰にまきこまれて断ち滅ぼされてはならない。今は主があだを返される時だから、それに報復をされるのである」(エレミヤ 51:6)。昔のバビロンからイスラエル人を呼び出されたとき、そこには単にバビロンから彼らが出ること以上に大きな目的がありました。それは彼らをバビロンの考えや習慣また習わしから解放することを意味していました。そしてそれは今も同様です。「わたしたちは、不信心が当たり前となっている危険な時代に生存している。クリスチャンであると公言している人々でさえ、自分たちの聖書を信じない。神のみ言葉の真理は彼らにとってあまりにも率直で、鋭すぎるのである。……反キリスト的な考え、習慣、そして習わしが広くいきわたっている。そしてそれらはキリスト的であるとさえ解釈されている。しかし、最も価値のあるもの、すなわち神が最も高く評価しているものが、侮辱をもって扱われているのである。」(私たちの高い召し 354)

「福音は世の考えを心に抱くことを禁じている。……わたしたちは好意や感化力を得るために世の賢者たちの習慣や習わしを真似てはならない。キリストに似ていることが、真のキリスト教である。」(医療伝道 160, 161)

彼らにこのメッセージをお与えになったもう一つの目的は、彼らの注意を「もっと良い、天にあるふるさと」に向けさせるためでした(ヘブル 11:16)。「異国に捕らわれていた人々が、『バビロンのうちからのがれ出』よ、という言葉に従って、約束の国に回復されたように、今日、神を恐れる人々は、霊的バビロンから出よという言葉に心を留めている。やがて彼らは新たにされた地、すなわち天のカナンにおいて、神の恵みの記念として立つのである(エレミヤ書 51:6)。」(国と指導者下巻 316)

大背信

「そして彼はわたしを庭の門に行かせた。わたしが見ると、見よ、壁に一つの

穴があった。彼はわたしに言われた、「人の子よ、壁に穴をあけよ」。そこでわたしが壁に穴をあけると、見よ、一つの戸があった。彼はわたしに言われた、「はい、彼らがここでなす所の悪しき憎むべきことを見よ」。そこでわたしがはいって見ると、もろもろの這うものと、憎むべき獣の形、およびイスラエルの家のもろもろの偶像が、まわりの壁に描いてあった。またイスラエルの家の長老七十人が、その前に立っていた。シャパンの子ヤザニヤも、彼らの中に立っていた。おのおの手に香炉を持ち、そしてその香の煙が雲のようにのぼった。時に彼はわたしに言われた、「人の子よ、イスラエルの家の長老たちが暗い所で行う事、すなわちおのおのその偶像の室で行う事を見るか。彼らは言う、『主はわれわれを見られない。主はこの地を捨てられた』と」。またわたしに言われた、「あなたはさらに彼らがなす大いなる憎むべきことを見る」。そして彼はわたしを連れて主の家の北の門の入口に行った。見よ、そこに女たちがすわって、タンムズのために泣いていた。その時、彼はわたしに言われた、「人の子よ、あなたはこれを見たか。これよりもさらに大いなる憎むべきことを見るだろう。彼はまたわたしを連れて、主の家の内庭にはいった。見よ、主の宮の入口に、廊と祭壇との間に二十五人ばかりの人が、主の宮にその背中を向け、顔を東に向け、東に向かって太陽を拝んでいた。時に彼はわたしに言われた、「人の子よ、あなたはこれを見たか。ユダの家にとって、彼らがここでしているこれらの憎むべきわざは軽いことであるか。彼らはこの地を暴虐で満ちし、さらにわたしを怒らせる。見よ、彼らはその鼻に木の枝を置く」(エゼキエル 8:7～17)。

「ゼデキヤの治世の第六年に、主はエルサレムにおいて、また主の家の門の中や内庭においてさえ行われる憎むべきことを、幻の中でエゼキエルに示された。偶像の置いてある部屋、「もろもろの這うものと、憎むべき獣の形、およびイスラエルの家のもろもろの偶像」の絵が、すべて、驚嘆する預言者の目の前を過ぎていった(エゼキエル書 8:10)。

民の間で靈的指導者でなければならない「イスラエルの家の長老」たちが、七十人も神殿の庭の聖なる場所のかくれた部屋に持ち込まれた偶像の前で香をささげていた。ユダの人々は、異教の礼拝を行いながら、「主はわれわれを見られない」と言って、心ひそかに満足していた。彼らは「主はこの地を捨てられた」と言って、神を汚した(エゼキエル書 8:11, 12) (国と指導者下巻 65, 66)。

「今日多くの人々は神よりも人間を高め人気ある指導者を称賛し、富を礼拝し、

啓示の真理よりも科学を尊重してバアルに従っている。疑惑と不信は人々の心に悪影響を及ぼし、多くの者は人間の理論を神の言葉の代わりにしている。彼らは、人間の理性が神の言葉の教え以上に高められるべき時が来たと、公然と教えている。」(国と指導者上巻 139)

背教の結果

「祭司のかしらたちおよび民らもまた、すべて異邦人のもろもろの憎むべき行為にならって、はなはだしく罪を犯し、主がエルサレムに聖別しておかれた主の宮を汚した。その先祖の神、主はその民と、すみかをあわれむがゆえに、しきりに、その使者を彼らにつかわされたが、彼らが神の使者たちをあざけり、その言葉を軽んじ、その預言者たちをののしったので、主の怒りがその民に向かって起り、ついに救うことができないようになった。そこで主はカルデヤびとの王を彼らに攻めこさせられたので、彼はその聖所の家でつるぎをもって若者たちを殺し、若者をも、処女をも、老人をも、しらがの者をもあわれまなかった。主は彼らをことごとく彼の手に渡された。彼は神の宮のもろもろの大小の器物、主の宮の貨財、王とそのつかさたちの貨財など、すべてこれをバビロンに携えて行き、神の宮を焼き、エルサレムの城壁をくずし、そのうちの宮殿をことごとく火で焼き、そのうちの尊い器物をことごとくこわした。彼はまたつるぎをのがれた者どもを、バビロンに捕えて行つて、彼とその子らの家来となし、ペルシャの国の興るまで、そうして置いた。」(歴代志下 36:14～20)

「ネブカデネザルが最後にエルサレムを破壊したときに、多くの者は、長い包囲の恐ろしさから逃れたかと思うとつるぎに倒れた。なお残っていた人々の中で、特に祭司の長や国の役人やつかさたちは、バビロンに連れて行かれて、反逆者として処刑された。」(国と指導者下巻 76)

「イスラエルの子らは神から離れ、神の名誉を汚す諸国の方法と慣習から守るために与えられていた原則を維持しようとしなかったためにバビロンに捕囚として連れて行かれたのであった。主は、熱心を守るようにと彼らにお与えになった原則に対して彼らが不忠実である間は、彼らに繁栄をお与えになることができなかった。自分たちの精神と行動によって彼らはこのお方のご品性を誤り伝えたので、このお方は彼らが捕囚にされることを許されたのであった。彼らが主から離

れたために、このお方は彼らを低くされた。主は彼らをそのゆく道に行くにまかせ、罪のない者も罪ある者と共に苦しんだのであった。

主の選民は、自ら信頼に値しない者であることを実証した。彼らは利己的で、陰謀めいており、不名誉なものであることを自ら示した。……

なぜ主は最初にエルサレムが火によって滅ぼされることを許されたのであろうか。なぜこのお方はご自分の民がその敵によって打ち破られ、異教の地に連れ去られることを許されたのであろうか。それは、彼らがこのお方の伝道者にならなかったからである。」(パイブル・コメント [E・G・コト・コメント] 2 巻 1040)

忠実な者たち—過去と現在—

「ダニエルは王の食物と、王の飲む酒とをもって、自分を汚すまいと、心に思い定めたので、自分を汚させることのないように、宦官の長に求めた。」(ダニエル 1:18)

「王の食卓から与えられた食物は、その一部が偶像にささげられたものであるから、偶像礼拝に奉献されたものであった。そしてその食物にあずかる者は、バビロンの神々に敬意を表するとみなされるのであった。ダニエルと彼の仲間たちは、主に忠誠を尽くそうとすれば、こうした敬意を表することはできなかった。単に食物を食べ、または酒を飲むふりをするだけでさえも、彼らの信仰を拒否することになるのであった。このようにすることは、異教主義に参加して、神の律法の原則を汚すことになるのであった。」(国と指導者下巻 93)

「彼らは過去において肉が自分たちの食事とはならなかったように、将来も自分たちの食事に入るべきではないと決心した。」(天国で 261)

「シャデラク、メシャクおよびアベデネゴは王に答えて言った、『ネブカデネザルよ、この事について、お答えする必要はありません。もしそんなことになれば、わたしたちの仕えている神は、その火の燃える炉から、わたしたちを救い出すことができます。また王よ、あなたの手から、わたしたちを救い出されます。たといそうでなくても、王よ、ご承知ください。わたしたちはあなたの神々に仕えず、またあなたの立てた金の像を拝みません。』」(ダニエル 3:16 ～ 18)

「礼拝している群衆の中に、そのようなことをして天の神の栄えを汚すまいと固く決意した三人の者がいた。彼らの神は、王の王、主の主であった。彼らは他

の何ものにもひれ伏さないのであった。」(国と指導者下巻 115)

「歴史は繰り返されることになる。偽りの宗教が高められる。週の初めの日、すなわち通常の労働日であり、何の神聖さもない日がバビロンにおける偶像のように打ち立てられる。すべての国民、国語、民族はこの偽の安息日を礼拝するようにと命じられる。神によって制定され、創造の記念日として世に与えられた日を無視するというのが、サタンの計画である。この日の礼拝を強制する法令は、全世界に発布されるようになる。ある限られた程度には、それはすでに発布されている。いくつかの場所で社会的権力が、ちょうどバビロン捕囚に向かって異教の王が語ったように、龍のような声で語っている。

試練と迫害が、神のみ言葉に従ってこの偽りの安息日を拒むすべての人々に及ぶようになる。武力がすべての偽りの宗教の最終手段である。はじめは、バビロンの王が音楽や外面の見かけの力を試してみたように、魅惑的なものを試す。もしサタンによって靈感を受けた人間に発明されたこれらの呼び物が、人に偶像を拝ませることに失敗すると、なめつくすような炉の炎が彼らを焼き尽くすために用意されているのである。今もなお同じである。法王権は人々を自分に従わせるためにその力を行使してきたし、これからも続けていく。わたしたちは、異教との戦いにおいて神の僕たちによって表されたのと同じ精神を必要としている。」(バイブル・コメント [E・G・ホフ・コメント] 7 巻 976)

バビロンからの救出

「バビロンのうちからのがれ出て、おのおのその命を救え。その罰にまきこまれて断ち滅ぼされてはならない。今は主があだを返される時だから、それに報復をされるのである。」(エレミヤ 5:16)

「神の民は幾世紀にわたってその自由を束縛されてきた。福音をその純粋なままに説教することが禁じられて、人間の法律に従わない者には、最も厳しい罰が課せられた。そのために主の大いなる霊的ぶどう園はほとんど全くといっていいほど、働きが行われなかった。人々は神の言葉の光を奪われた。誤りと迷信の暗やみが真の宗教の知識を今にもぬぐい去ろうとした。この地上の神の教会は、イスラエルの人々が、捕囚期間中バビロンに捕らえられていたのと全く同じように、この長い冷酷な迫害期間中、捕囚状態にあったのである。」(国と指導者下

「異国に捕らわれていた人々が、『バビロンのうちからのがれ出』よ、という言葉に従って、約束の国に回復されたように、今日、神を恐れる人々は、霊的バビロンから出よという言葉に心を留めている（エレミヤ書 51:6）。……神のさばきの時がきた。そして、地上の神の教会の会員には、今にも永遠に滅びうせようとしている人々に、警告の言葉を発する厳粛な責任が負わせられている。われわれは広い世界で耳を傾けるすべての人に、今、行われている大争闘の問題点である原則と、全人類の運命にかかわる原則とを明らかにすべきである。

間もなくすべての人の運命が永遠に決定される人類最後の恩恵期間において、天地の主なる神は、神の教会がこれまでになかったような行動を起こすことを期待しておられる。主イエスは、現代の真理を知ってキリストにある自由を得た人々を、この地上の他のどんな民よりも恵まれた神の選民としてみなされるのである。そして彼は、彼らが暗やみから驚くべきみ光に招き入れてくださったかたのみわざを語り伝えることを期待しておられる。豊かに与えられた祝福は、他の人々に伝えなければならないのである。救いの福音は、あらゆる国民、部族、国語、民族に及ばなければならない。」（国と指導者下巻 316, 317）

軍の長官（ちょうかん）のあいだを行ったり来たりしていました。

しずかに、ラダは祈りました。そして彼は断食（だんじき）しました。45日間、断食しました。ときどき彼は、甘みを入れていないお茶やスープをカップ一杯飲みました。ラダはほかの人を殺（ころ）すことに関わるよりは、必要（ひつよう）ならば餓死（がし）することを選びました。

その後、神様は地上に手をのばされ、ラダを助けてくださいました。彼が医者（いしゃ）の事務所へ到着したとき、看護婦（かんぷ）が彼に気づきました。彼女は彼に感銘（かんめい）を受け、彼がクリスチャンだということを高く評価しました。彼女はなんとかして彼の古い報告書（ほうこくしょ）を見つけました。医者が到着（とうちゃく）した後、彼女は古い報告書を医者（いしゃ）のところへもって行きました。

「あなたはすでにこの人が兵役（へいえい）をつとめることはできないと宣告（せんこく）したのではなかったですか。ころころと変えるつもりですか。あなたはそんなことをするような人ではないでしょう？」。

医者は、「回復不能（かいふくふのう）の障害（しょうがい）」とラダの報告書（ほうこくしょ）に書いて、それを軍隊（いくさ）の長官（ちょうかん）へ送りました。この新しい報告書（ほうこくしょ）のために、ラダは一生（いしょう）のあいだ、二度（にど）と兵役（へいえい）に招集（しょうしゅう）されることはなかったのです。

看護婦（かんぷ）の親切（しんせつ）が自分の命（いのち）を救（すく）ってくれたのを知ったとき、彼は感謝（かんしゃ）を表（あらわ）しました。パン屋（ぱんや）としての技能（ぎのう）を用いて、彼女（かのじょ）のためだけにケーキを焼（や）いてあげたのです。

今年（2011年）、わたしたちはラディヴォジュ（ラダ）・ヴコヴィツクの体を墓（はか）に埋葬（まいそう）しました。彼の笑顔（えんご）は逝（い）ってしまいました。しかし、彼の品性（ひんせい）はわたしたちの記憶（きおく）に残（のこ）っています。わたしたちは彼（かれ）が生きたように生きるでしょうか。わたしたちは静（しず）かに祈（いの）ること、また必要（ひつよう）ならば神様（かみさま）が問題を解決（かいけつ）（かいけつ）してください。このお方は自分で解決（かいけつ）（かいけつ）する能力（のうりよく）をおあたえにならなかったでしょうか。わたしたちは神（かみ）に従（したが）わず、だれかを傷（きず）つけるよりは、しずかに死（し）ぬことを選（えら）ぶでしょうか。

ラダをおよそ60年前（60ねん）前に助けてくださった神様（かみさま）が、今日（けふ）、わたしたちを助けてくださいますように。

麻婆豆腐

〔材料〕

- ・大豆：100 g （時間がないときには水煮大豆 150g）
- ・にんにく：2 片
- ・しょうが：2 片
- ・長ネギ：1 本
- ・しょう油：小さじ 1
- ・水：1 カップ
- ・粉末ダシ
- ・塩：小さじ 1
- ・甜麺醤（テンメンジャン）：小さじ 3 ～ 4
- ・豆板醤（トウバンジャン）：小さじ 1 ～ 2
- ・花椒（粉）：小さじ 1/2 （ない場合には山椒を倍）
- ・山椒（粉）：小さじ 1/2
- ・豆腐：2 丁
- ・ごま油：適量
- ・片栗粉：適量

〔作り方〕

1. 大豆は一晩水につけ薄皮をむき、フードプロセッサーで細かくする。
2. プライパンに油（適量）を入れ、にんにく、しょうがのみじん切りを軽く色がつくまで炒め、1. の大豆を入れて炒める（途中焦げそうな場合には、油を追加する）。長ネギのみじん切りを加え火を通し、しばらくしたらしょう油を入れる。
3. 水、粉末ダシ、塩を加え、しばらく加熱する。
4. 甜麺醤、豆板醤を加え全体をなじませ、しばらく加熱した後、花椒、山椒を加える。
5. 適度な大きさに切った豆腐を入れて、火を通す。
6. ごま油を入れ軽く混ぜたあと、水でといた片栗粉をいれてとろみをつける。

教会プログラム (毎週土曜日)

安息日学校 : 9:30-10:45 (公開放送)

礼拝説教 : 11:00-12:00 (公開放送)



【公開放送】 <http://www.4angels.jp>

聖書通信講座

※無料聖書通信講座を用意しております。

□聖所真理



お申込先 : 〒 350-1391 埼玉県狭山郵便局私書箱 13 号「福音の宝」係
是非お申し込み下さい。

書籍

【永遠の真理】聖書と証の書のみに基づいた毎朝のよみもの。



【安息日聖書教科】は、他のコメントを一切加えず、完全に聖書と証の書のみに基づいた毎日の研究プログラムです。



看護婦（かんごふ）に 救出（きゅうしゅつ）される

ラダは、また医者（いしゃ）の事務室（じむしつ）にいました。もう今までに何回おなじことをしたことでしょう。彼は行って検査（けんさ）を受けるのです。医者は彼のはれ上がった脚（あし）と傷ついた腕（うで）を診（み）ることでしょう。医者は、重症（じゅうしょう）のため兵役（へいえき）をつとめることはできないと宣告（せんこく）することでしょう。それから、ラダは医者（いしゃ）の検査結果（けんさけっか）を持って、軍隊（ぐんたい）の長官（ちょうかん）のところにいくのです。長官はラダにこの報告書（ほうこくしょ）では足りないと言って、別の医者（いしゃ）に送るでしょう。次の医者（いしゃ）もまたもう一度検査（けんさ）をします。時には、ある医者（いしゃ）がラダは兵役（へいえき）をつとめることができると言うでしょう。長官はそれで満足（まんぞく）するのです。しかし、すぐに別の検査（けんさ）が必要（ひつよう）になって、まただめだということになります。検査（けんさ）の結果（けっけ）は行ったり来たりです。そしてそれだけがラダの心配（しんぱい）ごとでした。

ラダは、クリスチャンになったばかりでした。彼は自分の命（いのち）を第二次世界大戦の間、守ってくださったお方にささげていました。彼のけがは、手榴弾（しゅりゅうだん：手で投げる爆弾）がちかくで爆発（ばくはつ）したためでした。その手榴弾（しゅりゅうだん）が消えた後、他の兵士（へいし）たちは、ラダが死んだと思って、そのまま戦場（せんじょう）にのこしてしまいました。しかし、死んではいなかったのです。



だれかがそれに気がつきました。そしてラダは戦場の医科病院（いかにょういん）にはこばれました。彼の頭（あたま）と腕（うで）から金属（きんぞく）の破片（はへん）が、痛（いた）みをとる麻酔（ますい）もなしにとりのぞかれました。

今、若いクリスチャンとしてラダは軍隊にはもどらないと決心しました。彼はどうしたらよいかわかりませんでした。彼は医者（いしゃ）と強引（ごういん）な